



# EF EPI

EF 英語能力指数

EF SET

EF英語標準テスト

[www.efset.org](http://www.efset.org)

2017

[www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi)

## 今年の新しい内容

1. 7か国が初参加: アンゴラ、カメルーン、キューバ、ギリシャ、ナイジェリア、バングラデシュ、南アフリカ
2. 過去最高の100万人超が試験を受験
3. 今回初めてアフリカでの英語環境について詳しく検証
4. 20か国の英語学習の取り組みを紹介
5. 世界の中・高生、および大学生の英語能力レベルの詳細情報 (関連レポート EF EPI-s として公開 [www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi))

## 目次

---

04	エグゼクティブ・サマリー
06	EF EPI 2017 ランキング
08	EF EPI 詳細データ
10	英語と経済、貿易
12	英語とテクノロジー
14	英語とイノベーション
16	英語と社会
18	ヨーロッパ
22	アジア
26	中南米
30	アフリカ
34	中東
38	結論
40	付録A: この指標について
42	付録B: EF EPI 能力レベル
43	付録C: CEFR レベルと Can-Do 評価
44	付録D: EF EPI 各国スコア
46	付録E: 参考資料

# エクゼクティブ・サマリー

2017年、英語はこれまでと同様、国際的なコミュニケーションにおいて必要不可欠なものとなっています。英語は、貿易、科学、ビジネス、外交の分野において使用される言語です。英語の世界的な広がり、いずれかの国の文化的な優越性を示すものではなく、相互に深く結び付いた世界における共通言語の必要性を示すものです。

今年は第7回となるEF 英語能力指数を作成し、世界中の成人の英語能力を測定しました。今年の指標では、2016年にEF 英語標準テスト(EF SET)を受けた100万人を超える受験者のデータに基づき、80の国と地域をランク付けしています。

アンゴラ、カメルーン、ナイジェリア、南アフリカからの数千人の参加により、今回初めて、アフリカを区別された地域として分析することができました。また、キューバ、ギリシャ、バングラデシュの英語能力レベルを初めて算出しました。

最後に、カリキュラム改革から教員トレーニング、社会人向けのオンライン学習プラットフォームまで、世界中の英語学習に対する20の主な取り組みを紹介しています。今回取り上げた取り組みの数々から、英語能力を向上させるために国々が採用できる幅広いアプローチがあることが見て取れます。

注目すべき分析結果は次の通りです：

**英語能力が大幅に向上した国の数が減少**  
世界全体としては、英語能力スコアにわずかな変化しか見られませんでした。サウ

ジアラビア、シンガポール、タイ、パナマの4か国のみで大幅な向上が見られました。また、ほとんどの国において、国別スコアに変化はありませんでした。絶対的スコアが大幅に低下した国はありませんでしたが、新たな国の参加や同レベルの国々が拮抗したことから、10位以上ランクを下げた国もありました。

**ヨーロッパの英語能力がわずかの差で最高**  
ヨーロッパの平均英語能力スコアは、2番目に高いアジアよりもわずかに上回っています。ヨーロッパの縁辺に位置する英語能力の低い国々を地域平均から除外すると、ヨーロッパとアジアのスコアの差は大きくなります。今年は上位10か国のうち8か国をヨーロッパ圏の国々が占めました。ヨーロッパに共同プロジェクトや、グローバル化そのものの価値を疑問視している人たちがいるとしても、英語能力のレベルの高さは、ヨーロッパの多文化主義、経済統合、観光および移動と密接に関係しています。

**中南米の成人の英語能力がアジアの成人に迫る**

中南米の平均英語能力スコアは、アジアより2ポイント低いだけですが、この2つの

地域では英語スキルの分布がまったく異なっています。中南米の国々は全地域の中で最も英語能力の格差が少なく、地域内で最も英語能力の高いアルゼンチンと最も低いエルサルバドルの差はわずか10ポイントです。中南米では、英語能力が低い国々が、同地域の英語能力が高い国々よりも速いスピードで英語能力を向上させているため、地域全体のスコアの幅が小さくなっています。一方、アジアでは、英語能力が最も高い国々と最も低い国々の間に30ポイント近くの差があり、世界で最も格差の大きい地域となっています。

**アフリカの英語能力は依然として正確な評価が困難**

利用可能なデータによると、アフリカの英語能力は世界平均をわずかに下回っています。しかしながら、この推定には9か国からの受験者しか含まれていません。この指標で上位40位にランクインしているナイジェリアと南アフリカは、調査に含まれているその他の7か国よりも人口がはるかに多く、地域の人口加重平均をつり上げています。2018年は、EF EPI調査に参加するアフリカ諸国の数が増え、大陸の英語能力がより明確になることが期待されます。

### 中東の英語能力は世界で最も低い

中東の平均英語能力は非常に低くなっています。今年の指標に含まれるほぼすべての国で公立教育の質が低く、不安定な雇用市場が成人の英語能力の改善を遅らせる原因となっています。特に紛争地帯では、基本的な教育の普及が依然として困難な状況です。中東の若年層は成長の大きな可能性を秘めています。すでに脆弱な教育システムの負担にもなっています。

### 男性よりも女性の英語能力が高い

世界全体では、女性の英語能力が男性よりも高くなっています。ほぼすべての国で男性よりも女性が教育を受ける割合が高く、職業訓練ではなく中等教育を修了し、大学に通う傾向にあります。しかしながら、男女差が狭まっている地域もあり、中南米と中東では、男女差は見られません。

### 若年層が高齢層を上回る

世代間の英語能力の差は思うほど大きくありませんが、世界的に年齢と英語能力は反比例しています。社会人は時間の経過とともに、学校で学んだことを忘れていくかもしれませんが、学校で学習した内容を職場や旅行で活かし、英語スキルを高めることもでき

ます。インド、インドネシア、ブラジル、日本を含む一部の国々では、学校を卒業して間もない若者と40歳以上の成人との差が驚くほど小さく、教育リーダーによる学校での英語指導の改善が、過去数十年間ほとんど行われていないことを示唆しています。世代間の差はオーストリア、スイス、ドイツで最も大きく、最近の高校卒業者と40歳以上の成人では20ポイント近くも差があります。

### 重要な経済指標と社会指標との関連性

英語能力レベルが低い国々と比較すると、英語能力が高い国ではより多くのサービス輸出を行い、インターネットへのアクセスが良く、研究開発への投資が多い傾向があります。このような強い関連性は、過去のEF EPIの全6版を通して一貫しています。英語とこれらの指標との間に単純な因果関係があることは考えにくいですが、好循環となっている可能性はあります。優れた英語能力によりアイデアやサービスの交換が促進され、より多くの人々が国際的な機会を得て、成人の英語能力が向上します。

# EF EPI 2017 ランキング

## 能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

### 非常に高い英語能力

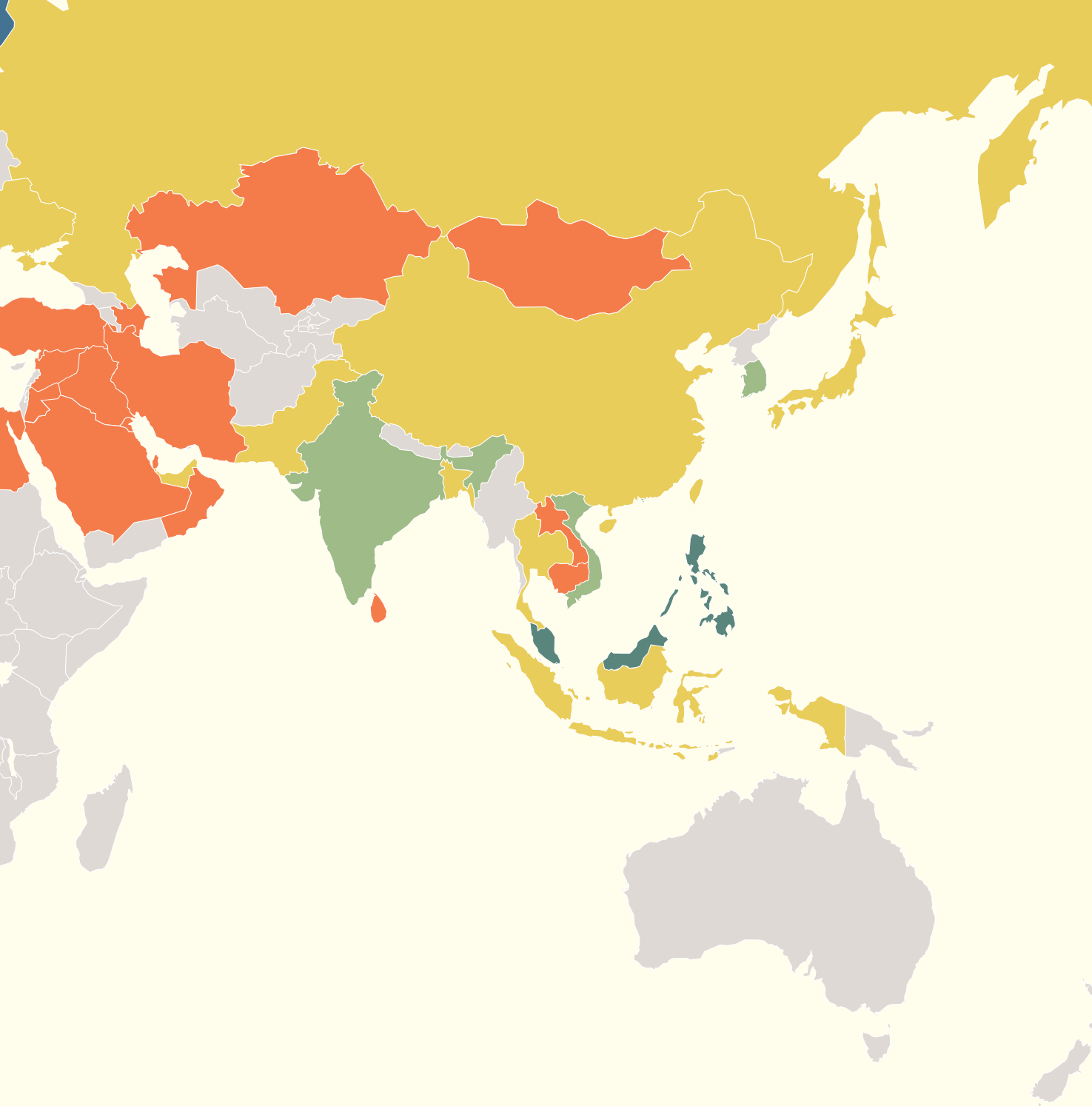
01 オランダ	71.45
02 スウェーデン	70.40
03 デンマーク	69.93
04 ノルウェー	67.77
05 シンガポール	66.03
06 フィンランド	65.83
07 ルクセンブルグ	64.57
08 南アフリカ	63.37

### 高い英語能力

09 ドイツ	62.35
10 オーストリア	62.18
11 ポーランド	62.07
12 ベルギー	61.58
13 マレーシア	61.07
14 スイス	60.95
15 フィリピン	60.59
16 セルビア	59.37
17 ルーマニア	59.13
18 ポルトガル	58.76
19 ハンガリー	58.61
20 チェコ共和国	57.87
21 スロバキア	57.63

### 標準的な英語能力

22 ブルガリア	57.34
23 ギリシャ	57.14
24 リトアニア	57.08
25 アルゼンチン	56.51
26 ドミニカ共和国	56.31
27 インド	56.12
28 スペイン	56.06
29 香港	55.81
30 韓国	55.32
31 ナイジェリア	54.74
32 フランス	54.39
33 イタリア	54.19
34 ベトナム	53.43
35 コスタリカ	53.13



**低い英語能力**

36 中国	52.45
37 日本	52.34
38 ロシア	52.19
39 インドネシア	52.15
40 台湾	52.04
41 ブラジル	51.92
42 マカオ	51.87
43 ウルグアイ	51.73
44 メキシコ	51.57
45 チリ	51.50
46 バングラデシュ	50.96

47 ウクライナ	50.91
48 キューバ	50.83
49 パナマ	50.68
50 ペルー	50.50
51 コロンビア	49.97
52 パキスタン	49.88
53 タイ	49.78
54 グアテマラ	49.52
55 エクアドル	49.42
56 チュニジア	49.01
57 アラブ首長国連邦	48.88

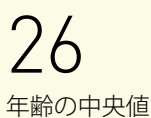
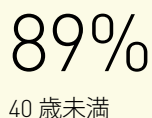
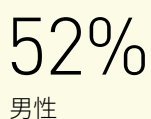
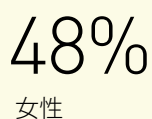
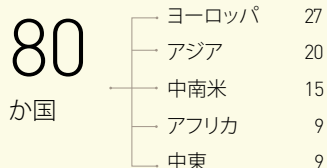
**非常に低い英語能力**

58 シリア	48.49
59 カタール	48.19
60 モロッコ	47.91
61 スリランカ	47.84
62 トルコ	47.79
63 ヨルダン	47.40
64 アゼルバイジャン	46.97
65 イラン	46.60
66 エジプト	46.51
67 カザフスタン	45.95
68 ベネズエラ	45.71
69 エルサルバドル	45.70

70 オマーン	44.48
71 モンゴル	44.21
72 サウジアラビア	43.98
73 アンゴラ	43.49
74 クウェート	43.14
75 カメルーン	42.45
76 アルジェリア	42.11
77 カンボジア	40.86
78 リビア	38.61
79 イラク	38.12
80 ラオス	37.56

# EF EPI 詳細データ

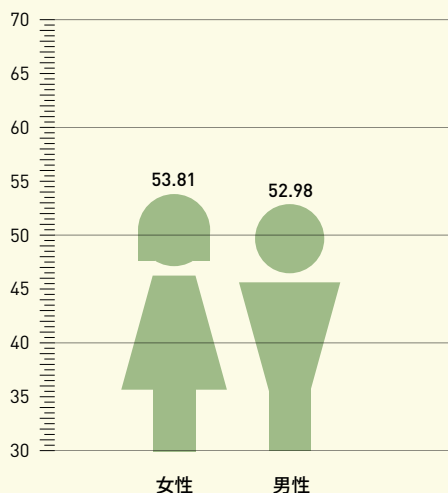
## 試験受験者の内訳



## 性別および年齢が英語能力に及ぼす影響

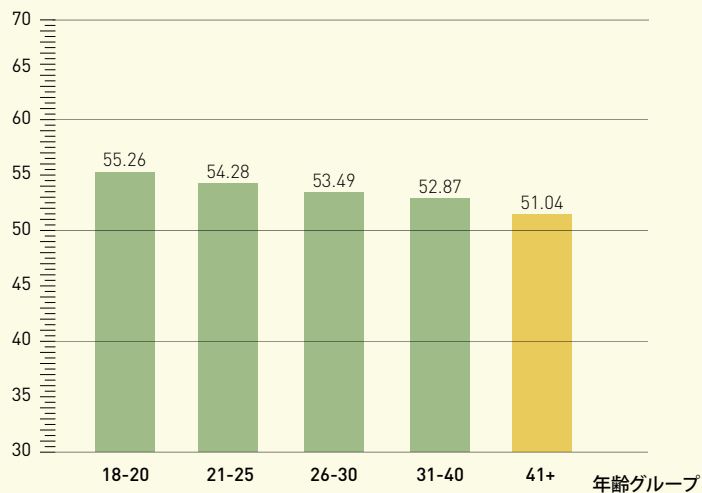
### 世界 男女の差

EF EPI スコア



### 世界 世代間の差

EF EPI スコア



能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い



## 今年の EF EPI の注目ポイント

上昇トレンド ↑

5

か国

少し上昇 ↗

44

か国

少し下降 ↘

24

か国

下降トレンド ↓

0

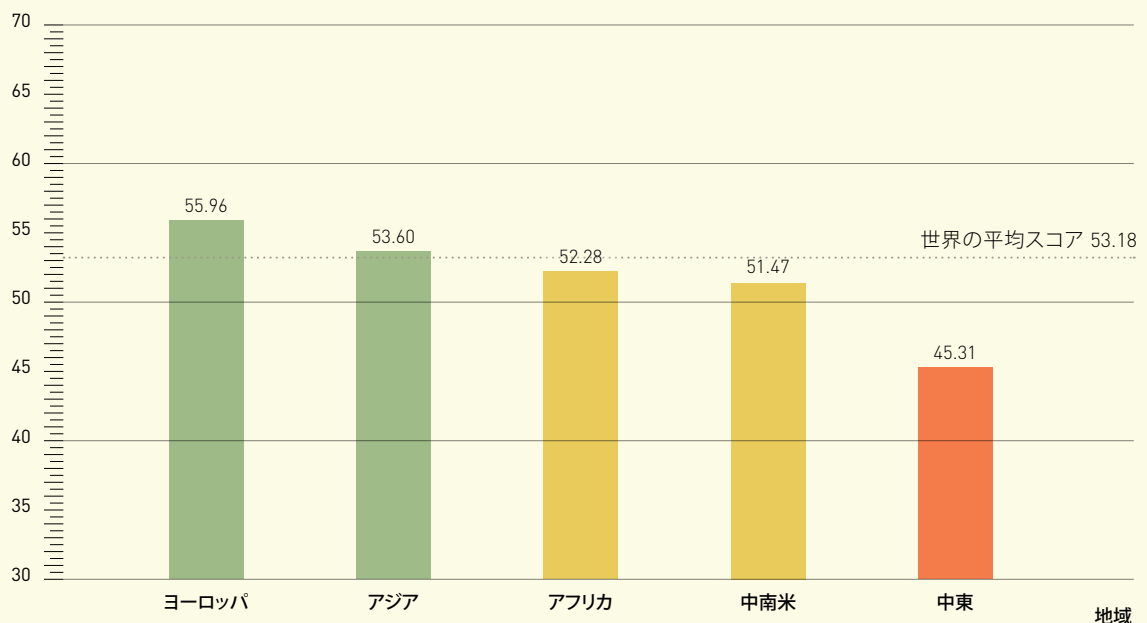
か国

## EF EPI 2017 地域別トレンド

	ヨーロッパ	アジア	中南米	アフリカ	中東
最上位国	01 オランダ	05 シンガポール	25 アルゼンチン	08 南アフリカ	57 アラブ首長国連邦
最下位国	64 アゼルバイジャン	80 ラオス	69 エルサルバドル	78 リビア	79 イラク
最大上昇	+2.00 リトアニア	+2.57 タイ	+2.60 パナマ	+1.31 チュニジア	+3.07 サウジアラビア
最大下降	-1.22 チェコ共和国	-1.47 カザフスタン	-1.89 アルゼンチン	-1.95 モロッコ	-0.93 アラブ首長国連邦

## EF EPI 地域別平均

EF EPI スコア



能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

# 英語と経済、貿易

ほとんどの国家経済で国際貿易への依存が進んでおり、今や世界の GDP の 30% 以上を国際貿易が占めています (20 年前の 20% から大幅に増加)。これらの国際的な取引に必要な共通言語は、圧倒的に英語です。物流パフォーマンス (グラフ A)、輸出書類、輸入所要時間を含む、輸出入関連指標と英語の間には強い相関性があります。

## ビジネスにより適した環境

英語能力の高い国々は、ビジネスのしやすさにおける主要な指標でより優れたパフォーマンスを示しており、ビジネスのしやすさと英語能力 (グラフ B) の間には EF EPI 全版を通して常に強い相関性が見られます。国内または地元でビジネスを行う場合、起業家は英語を必要としない場合もありますが、世界的なサプライチェーンの一環として、最終製品の顧客 (市場) として、または海外の同業者の競合企業として、ますます多くの企業が世界を舞台に事業を拡大しています。

## 英語と経済成長

世界の経済において、高い英語能力には大きなメリットがあります。英語能力は、国内総生産と一人当たり国民総所得 (グラフ C) を含む数多くの経済指標と相関しています。発展途上国において、製造業から知識ベース経済へ移行するには、国際的な共同作業を行える高い英語スキルを持った成人が必要になります。これに応じて、英語能力とサービス輸出の間には強い相関関係が見られます (グラフ D)。

## 言語の多様性

ヨーロッパでは多言語の使用が特に推進されてきましたが、言語の多様性があるのはヨーロッパ大陸だけではなく、多くの国々が複数の公用語に加え、地域や部族の言語も持ち合わせています。発展途上経済の中には一国の独占的な貿易相手を有し (通常、以前に植民地支配を受けていた国)、英語以外の言語でコミュニケーションを取っています。このような言語は、学校で最初の外国語として教えられる傾向があり、多く

の中等教育や高等教育で教授言語としても使用されています。

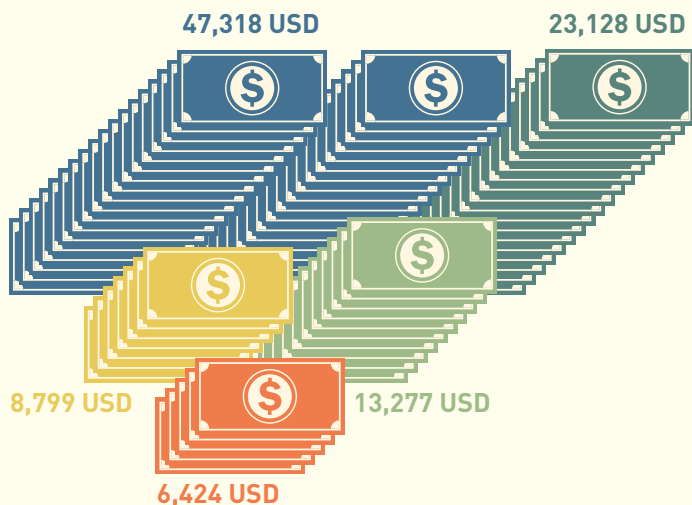
このような多様な言語背景において、英語能力向上のための万能なアプローチというものはありませんが、政策立案者は英語教育によってその他の外国語の教育が犠牲となるわけではないということを認識する必要があります。

## 最貧国における英語

また、英語は世界の後発開発途上国 (LDC) の経済的展望においても必要不可欠な役割を担っています。国連世界観光機関 (UNWTO) のデータによると、後発開発途上国の国際観光客到着数は、1995 年の 400 万人から 2014 年には 2500 万人に増加しています。国際観光客は世界中から来ていますが、国際共通語として多くの場合、英語が使用されます。現地の労働力が拡大し続ける観光産業の需要を満たすことができれば、開発地域で切望されている国の成長をもたらすことができるでしょう。

## 英語と豊かさの密接な関係

EF EPI 能力の各レベルに含まれる国々の一人当たり平均調整純国民所得を評価すると、英語能力と個人の収益力に明らかな関係性が見られます。

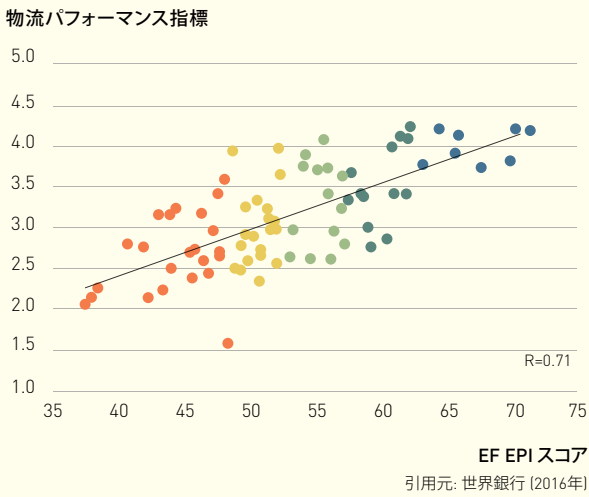


能力レベル

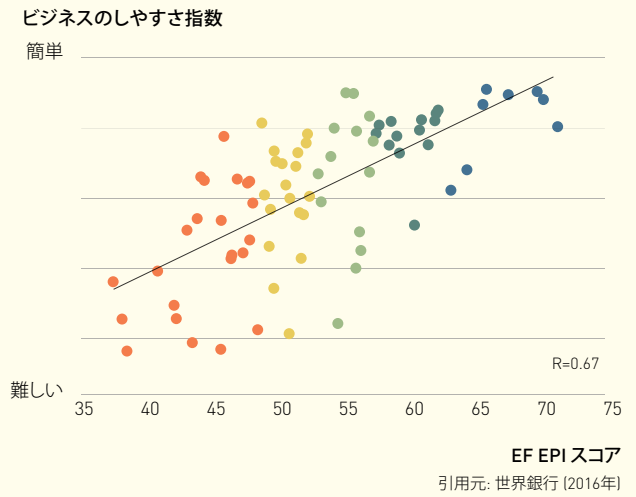
- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

引用元: 世界銀行 (2015年)

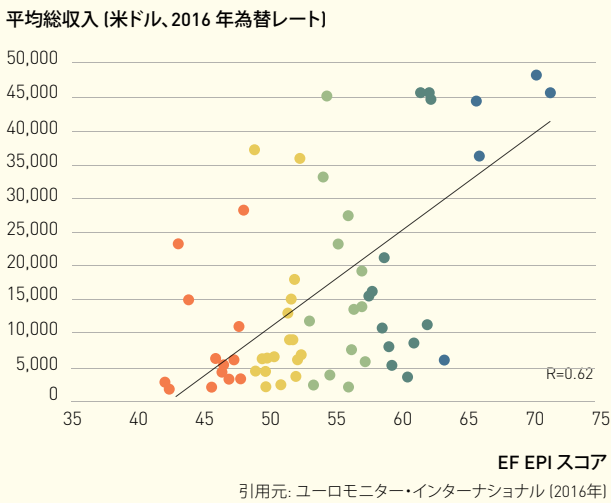
グラフ A  
英語力と物流



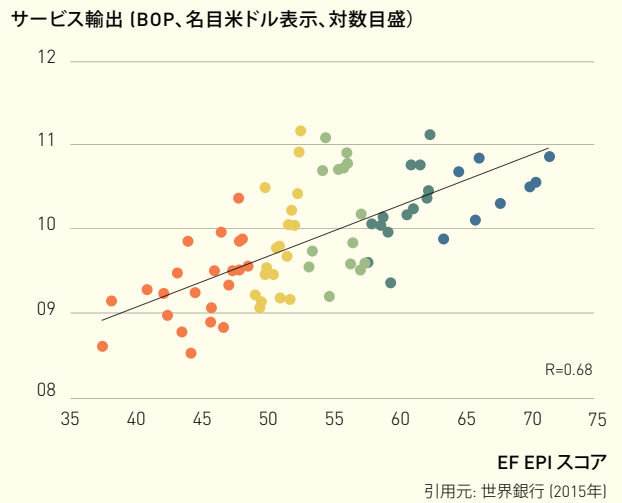
グラフ B  
英語力とビジネス



グラフ C  
英語力と収入



グラフ D  
英語力とサービス輸出



能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

# 英語とテクノロジー

インターネット上にあるウェブサイトの上位1千万件のうち、52%が英語であると推定されています。英語能力は、インターネットユーザーが日常的にこのような英語のリソースにアクセスし、アイデアや経験を幅広いオーディエンスと共有することを可能にします。ブロードバンド契約数や安全なサーバー数(グラフ F と G)などのインターネットアクセスの指標と同様に、インターネット使用レベルと英語能力の間には強固な相関関係(グラフ E)があることがわかります。インターネットを容易に利用できると、英語との接触機会が増え、英語能力の構築に繋がります。英語スキルが向上すると、オンライン上でさらに多くの英語リソースにアクセスしやすくなります。

## 知識を共有する世界

世界最大のテクノロジー企業の大半が米国企業であり、最も一般的に使用されているプログラミング言語は、ほぼすべて英語に根差しています。そのため、低い英語能力はプロ

グラマーがIT開発やコンピュータサイエンスの分野でリソースにアクセスする際の障害となります。国家レベルでは、このようなリソースへのアクセスの制限がITインフラやeコマースの開発を管理する技術者層の形成の妨げとなります。

## テクノロジーと貿易

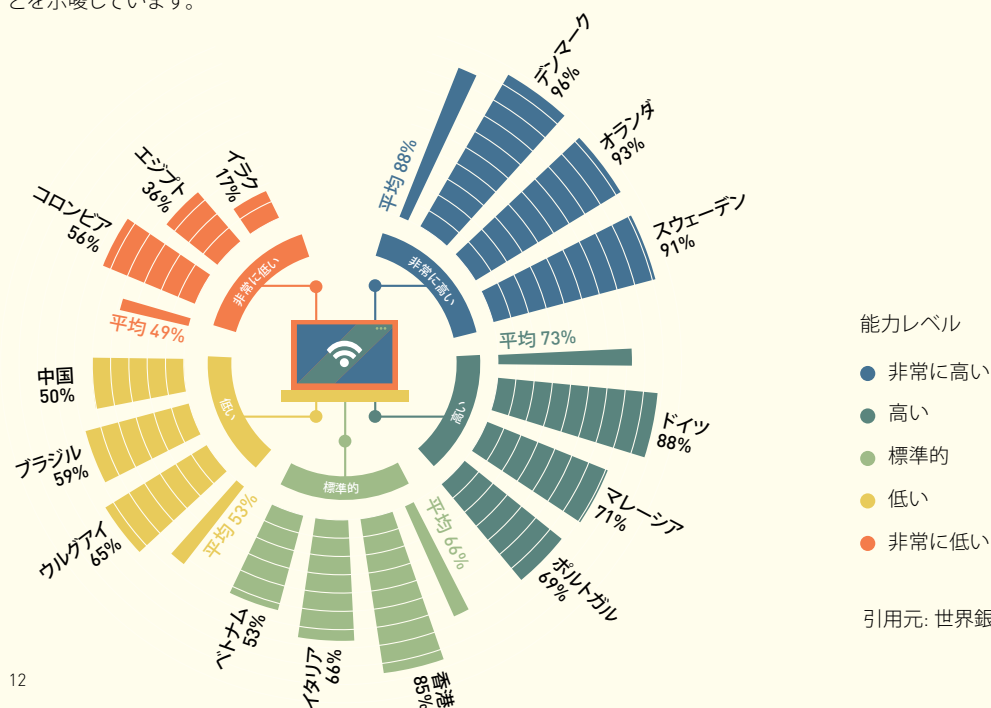
テクノロジーはあらゆる種類の貿易を強化させ、また新しい取引の分野を創出します。2014年の世界におけるコンピュータおよび情報サービスの輸出は3千億ドルを超えました。英語能力の高いヨーロッパがこれらのサービスの最大の輸出者で、同年における世界全体の輸出の58%を占めています。情報通信技術(ICT)サービスの輸出が英語能力と非常に強く相関(グラフ H)するのは当然といえるでしょう。発展途上国経済がこの分野へ進出するためには、テクノロジー技能に加え、海外の顧客と英語でコミュニケーションを取ることが可能な労働力が必要です。

## オンライン英語学習

テクノロジーは、個々の学習者に本格的で確かな英語ソースで学習する機会を与え、現地で利用可能なものよりも質の高い英語トレーニングを提供することにより、英語スキル開発の最も強力な促進力となる可能性があります。理論上では、高速モバイル接続の可用性の向上と、公共および民間のオンライン英語トレーニングの多様化が進めば、正規の学校教育以外で成人が英語能力を向上させやすい環境ができます。しかしながら、現実では、無料オンライン講座(MOOC)では生徒の保持に悪戦苦闘し、オンラインプログラムを通じて認定を取得する英語学習者は、雇用主が認定資格を認識しないことがあると感じています。オンライントレーニングの可能性を最大限に発揮させるためには、オフラインプログラムと同様の検査や認定をオンラインプログラムでできるようにするため、認定団体がもっと取り組みを広げなければなりません。

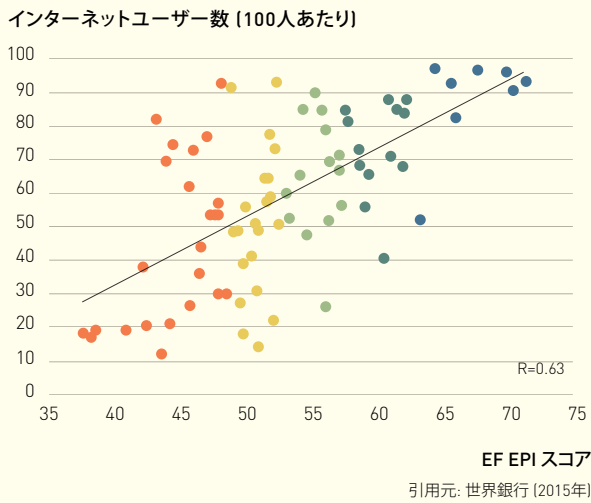
## インターネット接続性は英語能力の高さと関連

インターネット普及率(各国のインターネットアクセスを有する人々の割合)は、各EF EPI能力レベルを平均して増加させ、英語とインターネットアクセスとの間に正の相関があることを示唆しています。

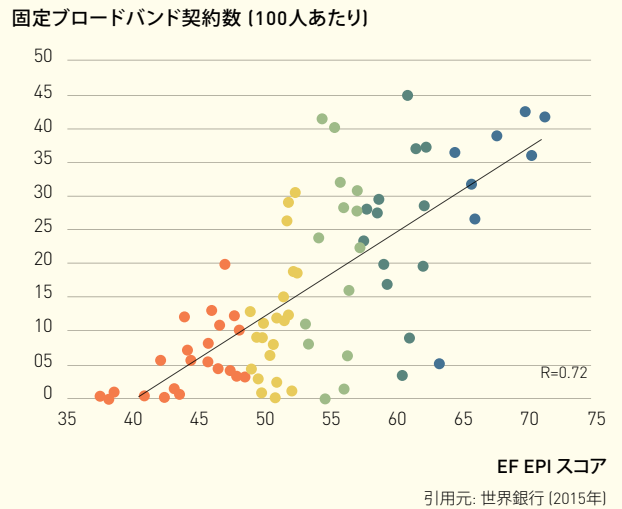


引用元: 世界銀行 (2015年)

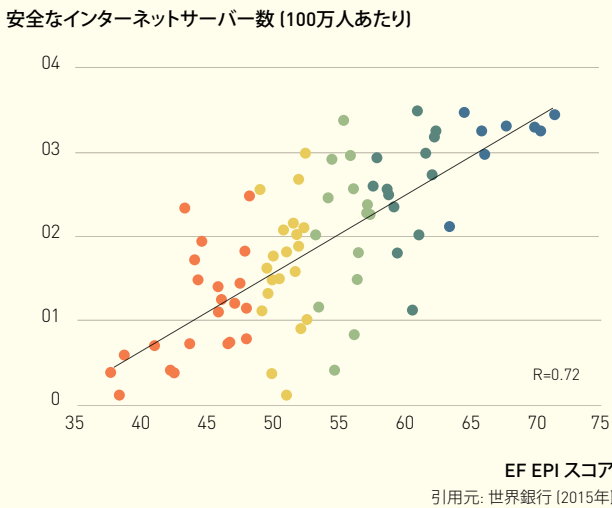
グラフ E  
英語とインターネットユーザー



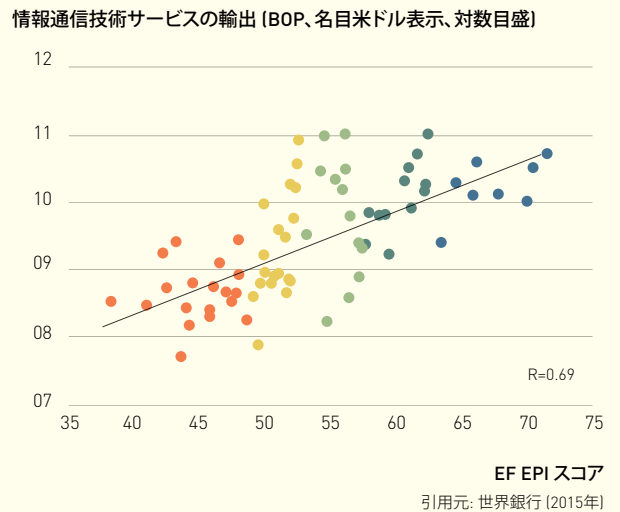
グラフ F  
英語とブロードバンドアクセス



グラフ G  
英語とインターネットセキュリティ



グラフ H  
英語と情報通信技術サービスの輸出



能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

# 英語とイノベーション

どの言語でも素晴らしいアイデアを表現することはできませんが、そのアイデアを英語で共有すれば、より幅広いオーディエンスに伝えることができます。世界中で英語を話す人々が増え続けているのに加え、学術雑誌から Twitter のフィード、TED トークまで、最も影響力のあるアイデアを共有するプラットフォームでは、圧倒的に英語が使用されています。さらに、科学技術は猛烈な速さで進歩しており、翻訳のための時間はほとんどありません。

## 研究と開発

毎年、国家の英語能力と研究開発 (R&D) における国民一人当たりの研究者数および R&D への投資 (グラフ I と J) との間には強い相関関係があることが明らかにされています。研究者は自身の調査結果を共有し、海外の研究者からの最新の研究情報に精通するために英語が必要です。そのため、英語スキルと知的財産の使用による収益の間にも強い相関関係が見られます (グラフ K)。英語能力が高い国では、イノベーションが言葉の

壁により国内に留まることなく、国際的に発見、共有、認可される可能性が高くなります。

## 英語でのアイデア共有

かつて中世時代にラテン語がそうであったように、英語は紛れもなく現代世界の科学用語です。世界で最も影響力のある科学雑誌 100 誌 (SCImago Journal Rank による選出) すべてが英語で記事を掲載しており、英語能力と国民一人当たりの科学および技術誌数には強い相関関係が見られます (グラフ L)。さらに、英語で論文を発表する科学者は、他の言語で論文を発表する科学者と比べて、論文が国際的に引用される可能性が高くなります。アイデアは共有されることで躍進し、世界の科学コミュニティへの融合が進み、自然とイノベーションの加速につながります。

## 共同の取り組み

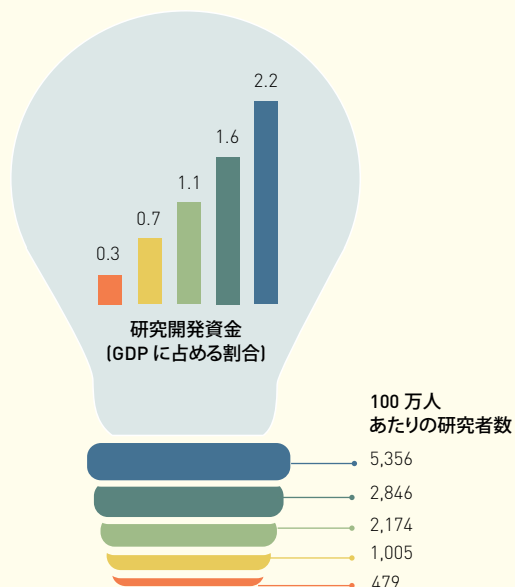
国際的な共同研究もますます一般的になってきています。2015 年の時点で、オランダ、シンガポール、スウェーデンなどの英語能力

が非常に高い国々で発表された科学論文の半数以上で少なくとも 1 名の国外共同研究者の記載があるのに対し、中国、インド、日本など英語能力の低い国々では 30% 未満に留まっています。大学は国際的な共同研究の重要性を認識し、理系の大学院課程の一部に特別な英語コースを組み入れたり、大学院生を海外留学に派遣し、英語漬けの環境で英語能力の強化を行ったりしています。

これらの取り組みは、生徒の職業的な成功を向上させるだけでなく、大学の評価にとっても有益です。世界大学ランキングは、主に研究発表と引用を基にランク付けされており、どちらも高い英語スキルによって促進されます。「Times Higher Education 2017」ランキングの上位 20 大学の中で、一次言語に英語以外の言語が使用されている大学は一校のみです。

## 英語はイノベーションを解き放つ鍵

英語は、研究開発支出や国民一人当たりの研究者および技術者数を含む数々の主要なイノベーション評価と正の相関関係を持ちます。

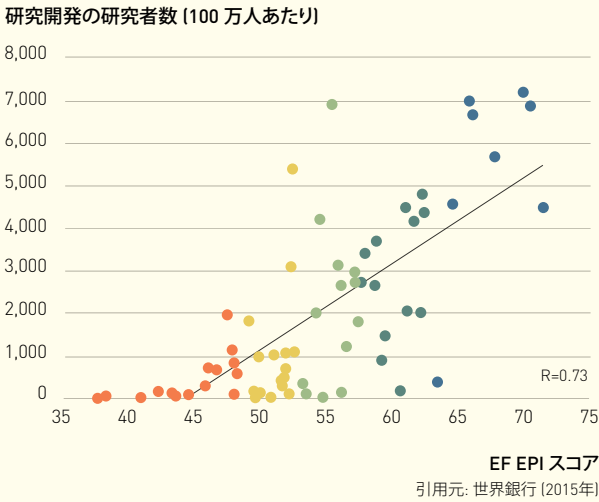


能力レベル

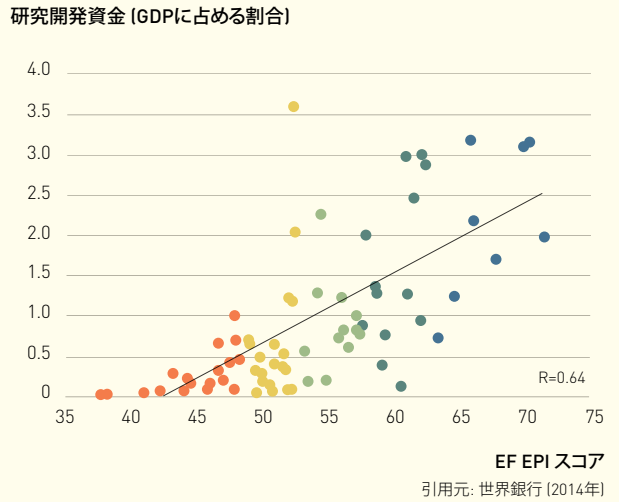
- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

引用元: 世界銀行 (2015年)

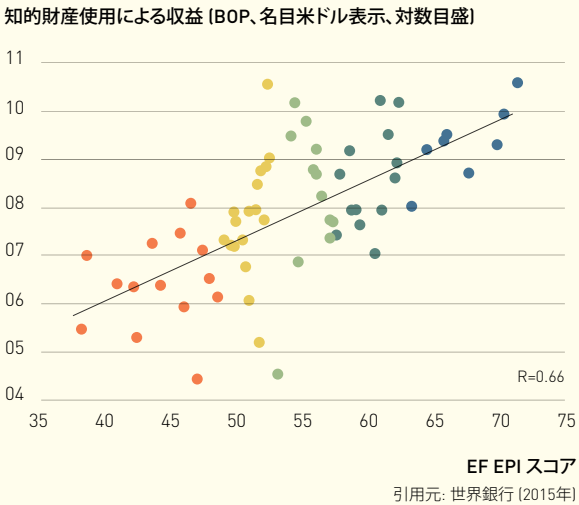
グラフI  
英語力と研究者



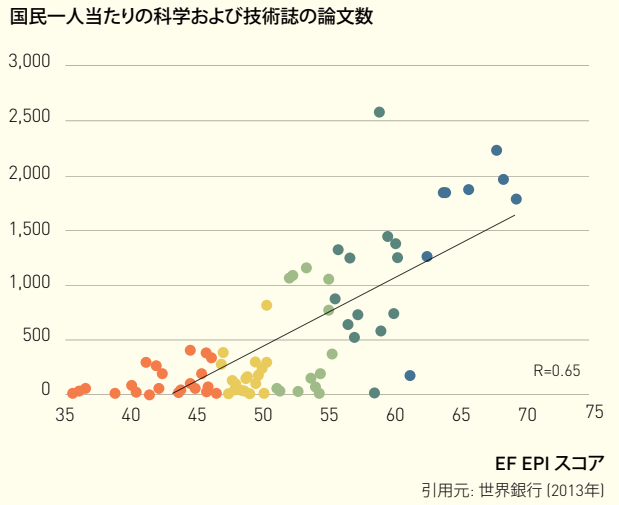
グラフJ  
英語力と研究開発支出



グラフK  
英語力と知的財産使用による収益



グラフL  
英語力と学問



能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

# 英語と社会

成人の英語能力レベルは、国の開発レベルの包括的な分類を示す人間開発指数 (グラフ M) などの幅広い開発指数と相関関係があります。英語とこのような社会的要因との関係は、単純な因果関係ではなく、経済の発展によって英語学習のための新たなリソースとインセンティブがもたらされ、それがさらなる成長を促進すると考えられます。

## 学校での英語教育

基礎教育の確立は英語レベル向上のための必須条件です。英語能力と教育的達成度間の相関関係には、普遍的な教育へのアクセスの必要性が反映されていますが、学校に出席するだけで英語能力の向上が保証されるわけではありません。世界中のほぼすべての学校で英語が教えられていますが、成績の良い学校で英語教育に力を入れない場合もあれば、逆に成績の劣る学校でも英語教育が熱心に行われている場合

があります。成人の識字レベルと英語能力の間に相関関係はなく、学校教育は、日常生活での英語との接触、英語スキルに対する社会的価値、社会における英語の歴史的大きく、成人の英語能力レベルを決定付ける数々の要因の一つに過ぎません。

## 英語と若者

ほぼすべての国で、40 歳を超える成人よりも、若い世代の人々の英語能力が高くなっています。今日では、英語指導が早くから開始され、数十年前に比べて広く普及し、指導内容もより充実しています。しかしながら、高齢人口が多い国では、若年人口が多い国よりも通常、英語能力が高く、人口の 65 歳以上が占める割合と国の英語能力には、強い相関関係が見られます (グラフ O)。この明らかなパラドックスは、世界で最も年齢の高い国々を詳しく見てみることで説明することが

できます。世界で最も年齢の若い国々はアフリカや中東地域にあり、英語能力が非常に低くなっています。その一方で、ヨーロッパの国々は人口年齢が高く、英語能力も最も高くなっています。

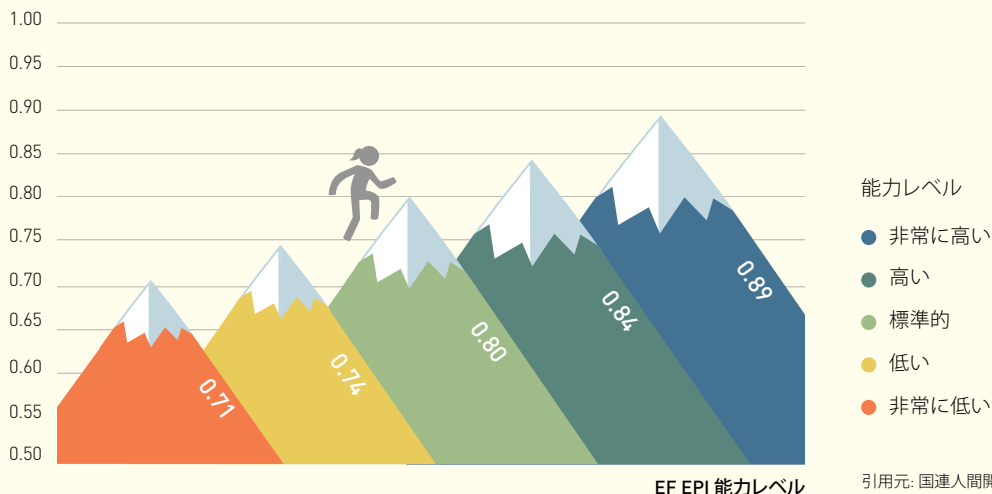
## 英語と女性

男女の役割についてより革新的な意識を持つ社会では、人々の英語能力が高く、英語能力と非農業種の賃金雇用における女性の割合の間に、強い相関関係が見られます (グラフ P)。EF EPI 全版において、地域、裕福さ、全体の英語能力レベルに関係なく、世界的にほぼすべての国で、女性の英語能力が男性よりも高いことが報告されてきました。女性は 21 世紀のあらゆる専門分野で必要不可欠な労働力となっており、家庭以外での女性雇用が少ない国々では、女性が教育を受け、専門職に就く機会を確保することで、英語能力の最大の向上が見込めます。

## 国の発展と共に英語能力も向上

人間開発指数 (HDI) は、平均寿命、教育、国民一人当たりの所得に基づいて国民の生活の質をランク付けします。各 EF EPI 英語能力レベルの平均 HDI スコアを見るとわかるように、英語と生活の質は正の相関があります。

### 人間開発指数スコア

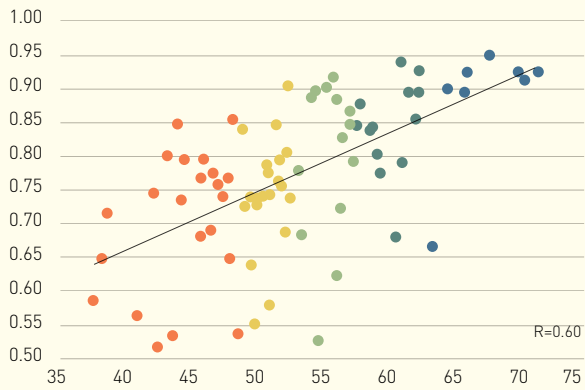


引用元: 国連人間開発報告書 (2016年)



グラフ M  
英語と生活の質

人間開発指数

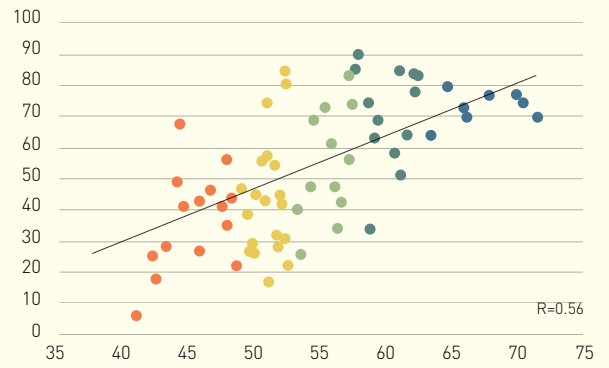


EF EPI スコア

引用元: 国連人間開発報告書 (2016年)

グラフ N  
英語と教育

教育的達成度、高卒以上、25歳以上の人口 (総人口の累積)

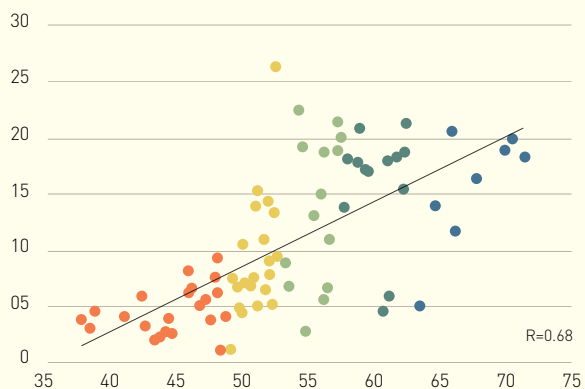


EF EPI スコア

引用元: 世界銀行 (2014年)

グラフ O  
英語と人口年齢

65歳以上の人口 (総人口に占める割合)

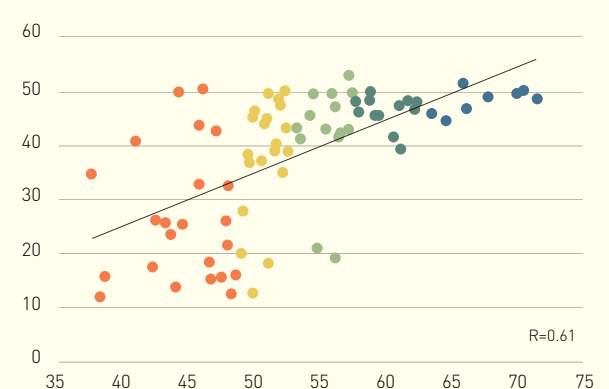


EF EPI スコア

引用元: 世界銀行 (2015年)

グラフ P  
英語と女性労働力

非農業種の賃金雇用における女性の割合 (非農業種雇用総数に対する割合)

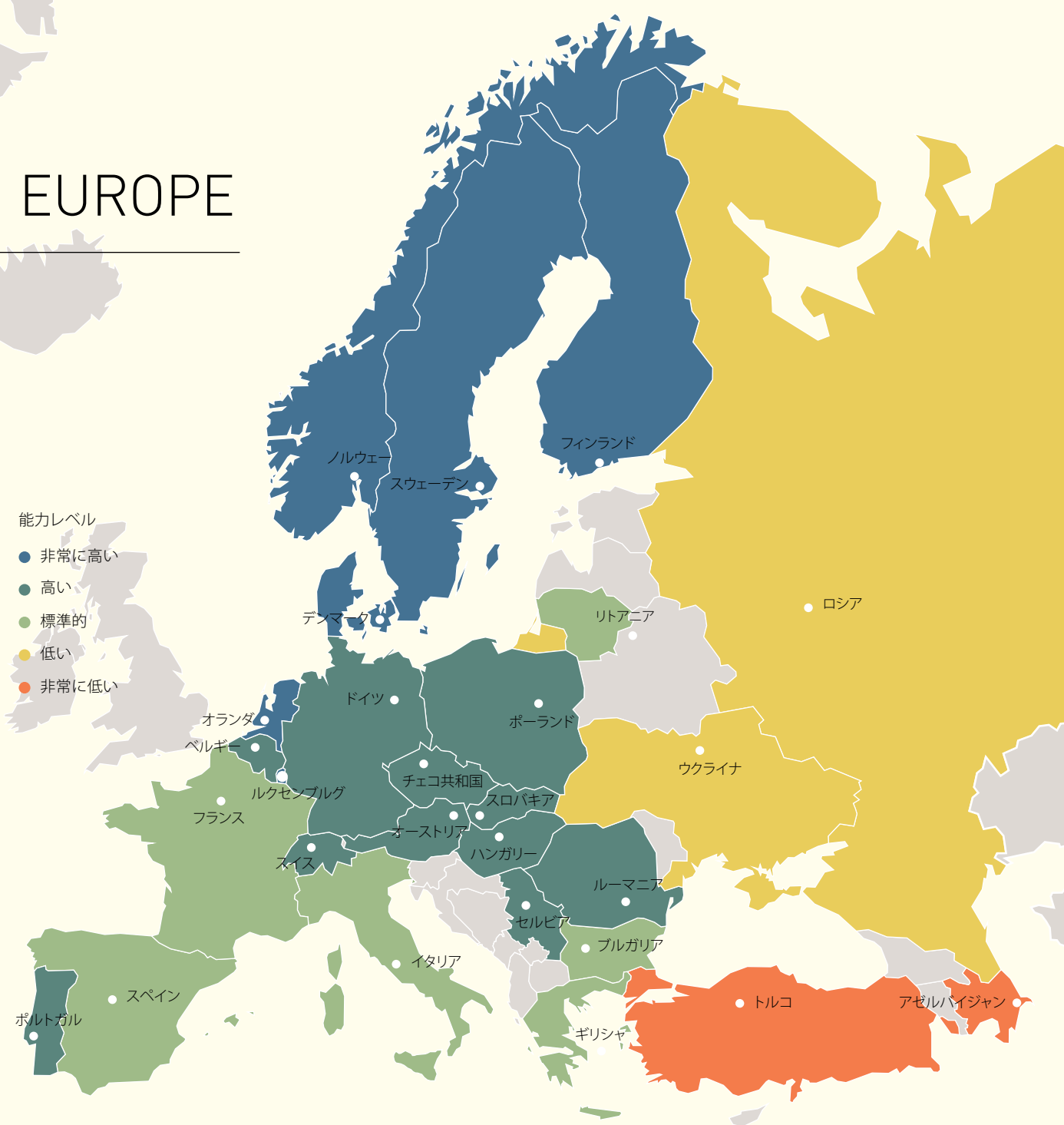


EF EPI スコア

引用元: 世界銀行 (2013年)

能力レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

# EUROPE



## EF EPI ランキング

01 オランダ	71.45	12 ベルギー	61.58	23 ギリシャ	57.14
02 スウェーデン	70.40	14 スイス	60.95	24 リトアニア	57.08
03 デンマーク	69.93	16 セルビア	59.37	28 スペイン	56.06
04 ノルウェー	67.77	17 ルーマニア	59.13	32 フランス	54.39
06 フィンランド	65.83	18 ポルトガル	58.76	33 イタリア	54.19
07 ルクセンブルグ	64.57	19 ハンガリー	58.61	38 ロシア	52.19
09 ドイツ	62.35	20 チェコ共和国	57.87	47 ウクライナ	50.91
10 オーストリア	62.18	21 スロバキア	57.63	62 トルコ	47.79
11 ポーランド	62.07	22 ブルガリア	57.34	64 アゼルバイジャン	46.97

## 連携がヨーロッパの英語力を向上

ヨーロッパは世界で最も英語能力が高い地域です。世界主義と国際協力は現代ヨーロッパの特徴であり、今日のグローバル化した世界における連携には英語能力が要求されるため、これは自然な傾向でしょう。

このレポートに含まれている5つの地域の中で、ヨーロッパは高等教育での交換留学や国境を越えた専門家の移動が最も盛んに行われており、最も経済統合が完成された地域でもあります。

しかしながら、同時に、ヨーロッパでは共同プロジェクトについて疑問を持つ人々も増えてきています。過去数十年にわたる取り組みの取り消しを公約に掲げる、国家主義の政治家にも票が集まっています。英語発祥の地、英国では最近の国民投票によりヨーロッパ連合からの脱退が可決されました。世界の舞台における英語の役割が変わることはありませんが、ヨーロッパで英語教育への逆風が起きるかどうかは、今後も見守っていく必要があります。

### 地域別トレンド

英語を公用語としない国々の中では、北欧諸国が最も高い英語能力を有しています。非常に高い英語能力レベルに含まれているヨーロッパの国々にはいくつかの共通した特徴があります。まず、英語を必須外国語として小学校からすべての生徒に指導しています。次に、英語の授業では、全レベルにおいて文法の正確さよりもコミュニケーションに焦点を当てたアプローチを採用しており、多くの大学課程や学位取得プログラムで英語が教授言語として使用されています。最後に、これらの国々の国民は旅行の機会や、職場やテレビで日常的に英語に接触する機会に恵まれており、英語

のテレビ番組が吹き替えされることはほとんどありません。

高い英語能力の国々は、非常に高い英語能力の近隣国が秀でた英語能力を可能にしている特徴を多く共有していますが、すべての特徴が共有できている訳ではありません。たとえば、ドイツでは、学校での英語コミュニケーション教育は行き届いていますが、スカンジナビア諸国の特徴である、日常的に英語に触れる機会が不足しています。スイスとベルギーでは、学校が幅広い高等教育を英語で提供していますが、英語は他の公用語と共同、または競合するのか、その役割は議論的となっています。そして、ポルトガルでは英語のテレビ番組が吹き替えなしで放送されていますが、英語で提供されている高等教育プログラムはほとんどありません。

### 今後の課題

平均的に見て、ヨーロッパの英語能力は他の地域よりも高くなっていますが、向上はしていません。ヨーロッパ最大の経済国の中にも、成人の英語能力が低下が顕著なため職場でのコミュニケーションが効率的に行えていない国もあります。特にイタリア、スペイン、フランスは、すべての大学の学位課程における各分野に特化した英語指導を含め、より実践的な英語コミュニケーションスキルを公立学校で指導し、成人が各職業に適した英語スキルを構築するための支援を行うことにより、恩恵が受けられるでしょう。

これらの国々では、英語と接触する機会の少なさが最大の障害となっており、英語との接触を増やすための実際的な取り組みにより、成人の自信の程度を引き上げることにつながるでしょう。

ヨーロッパ縁辺の国々は英語能力がかなり低く、統合や交流の妨げとなっています。たとえば、ウクライナ、トルコ、ロシアの国民はギリシャ、ブルガリア、リトアニア、ルーマニアの国民と比べ、英語能力がかなり劣っています。グローバル化を拒絶し、母国語を称賛する国家主義の政治家が台頭してきたことによって、学校や大学での英語教育が妨げられる可能性もあります。これらの国々が英語能力を蔑ろにし続ける限り、英語能力の高いヨーロッパのライバル国との競争において、不利な状況に置かれたままとなるでしょう。

### 取り組み

ヨーロッパにおける英語能力向上の取り組みの多くには、公立教育システムのカリキュラム改革と評価が含まれます。ポーランド・プロセスと人気の高いエラスムスの学生交流プログラムは大学レベルでの学生の学生間の交流を向上させました。現在ヨーロッパには、成人の英語能力向上を目的とした国家の取り組みはありませんが、企業の語学研修プログラムが普及しており、個人が再訓練コースの支払いに利用できるたくさんの公的制度もあります。

# ヨーロッパにおける 英語学習の取り組み

## ドイツ

高い英語能力  
EF EPI スコア: 62.35  
80 か国中 9 位

### 教育の質開発研究所

2004 年に創立されたこの非営利組織は、国家の初等教育および中等教育における数学、読解、作文、外国語の標準を設定することを任されています。学校教育を通して最低 5 年間の外国語学習が義務づけられており、英語が最も一般的に選択されています。この組織は 2006 年からドイツ全土の生徒にテストを実施しています。競争的な雰囲気をつくりださないように、学校のテスト結果は非公開にされていますが、OECD の第三者評価によると、教育成果が全体的に向上しており、ドイツ教育制度全体におけるレベル差が狭まっていることが示唆されています。

## ハンガリー

高い英語能力  
EF EPI スコア: 58.61  
80 か国中 19 位

### キャンパス・ハンガリー

2012 年から 2015 年にかけて、Balassi Institute の「キャンパス・ハンガリー」プログラムは、学生および教員の交換交流を通してハンガリーの高等教育の国際化を目指しました。世界中のすべての国を対象に、留学を希望するハンガリーの学生に対して奨学金が提供されました。2 万件以上の奨学金が授与され、多くの学生が英語圏への留学を実現しました。このプログラムではまた、海外留学生在ハンガリー国内の外国語大学プログラムを検索できるウェブポータルも提供されました。このウェブポータルによって、プログラムの可視性が向上し、一元的な海外留學生募集プラットフォームの利用が可能になりました。

## スペイン

標準的な英語能力  
EF EPI スコア: 56.06  
80 か国中 28 位

### バイリンガル教育プロジェクト

教育省が資金援助を行うこのプロジェクトは、20 年前に開始され、幼年期から英語の授業を始め、全校規模の取り組みを導入することで二言語の常用を促進することを目的としています。マドリードでは、350 校を超える公立小学校と 180 校の私立小学校で英語とスペイン語の両方で授業が行われています。スペインの他の地域でも同様のバイリンガル教育モデルが採用されています。これらのバイリンガル学校の教師は C1 レベルの英語能力が必須条件とされており、必要に応じて追加トレーニングも受けられます。しかしながら、去年実施されたある大学の研究調査において、英語で科学の授業を受けていたマドリードの学生の小学校終了時における科学知識レベルが、他の学生と比較して低いことが分かり、このバイリンガル教育プロジェクトの有効性が疑問視される結果がでています。

## ロシア

低い英語能力  
EF EPI スコア: 52.19  
80 か国中 38 位

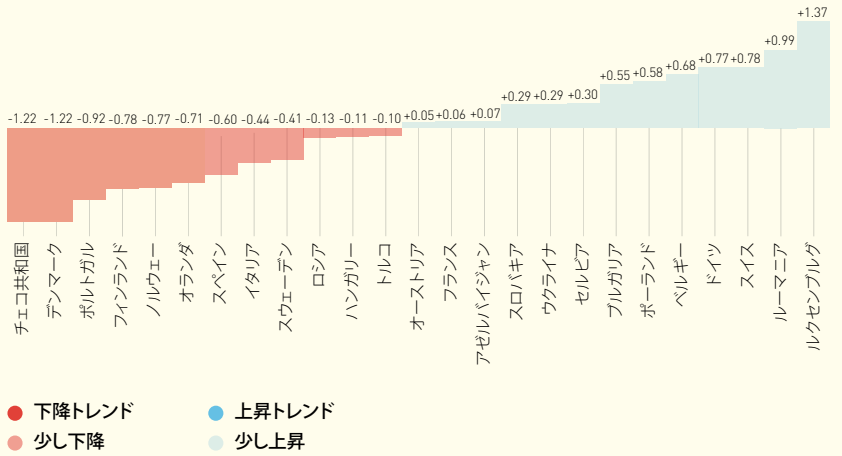
### 5/100

「5/100」プログラムは、2020 年までにロシアの大学 5 校を世界の上位 100 位にランクインさせることを目的としていますが、道のりはまだ遠そうです。2017 年の Times Higher Education 世界大学ランキングで一番順位の高かったロシアの大学は 188 位でした。Times のランキングは主に研究、引用、大学の「国際観」を基に計算されており、そのすべてにおいて英語能力は必要不可欠です。大学のランキングを上げて 5/100 のゴールを達成するために、ロシアの指定大学では英語で行う授業の数を増やし、必修の英語の教師資格プログラムが導入されます。

## EF EPI トレンド

今年は、ほとんどの国がわずかな上昇または下降傾向に留まったため、ヨーロッパ地域としての大きな変化は見られませんでした。ルクセンブルクとルーマニアが最も進展し、チェコ共和国はすべての国の中で最大の下げ幅を示しました。スロバキアはわずかな改善により、標準的な英語能力から高い英語能力へとレベルを上げました。

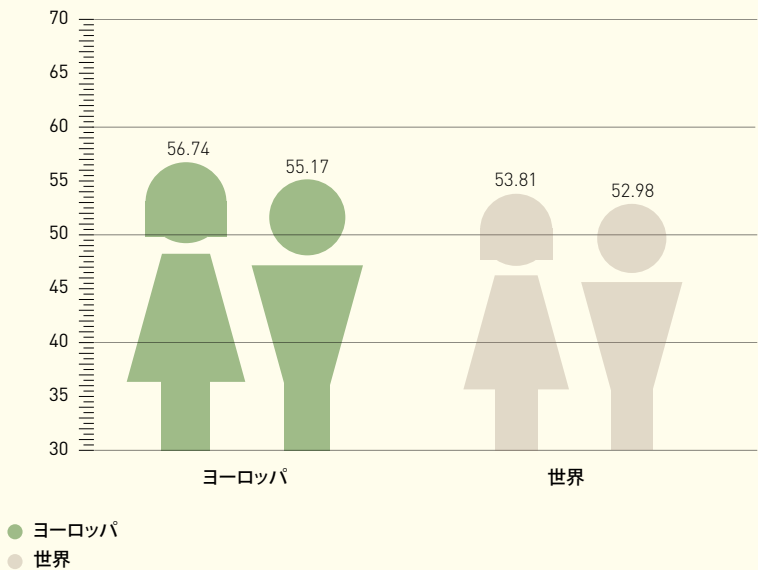
昨年からの EF EPI スコア変化



## 男女の差

ヨーロッパの男女の平均スコアは共に世界平均を大幅に上回っています。依然としてヨーロッパ人女性が男性よりも高いままですが、その差は狭まってきています。今年のスコアでは、ヨーロッパ人女性のスコアが下がり、ヨーロッパ人男性のスコアはわずかに上がっています。

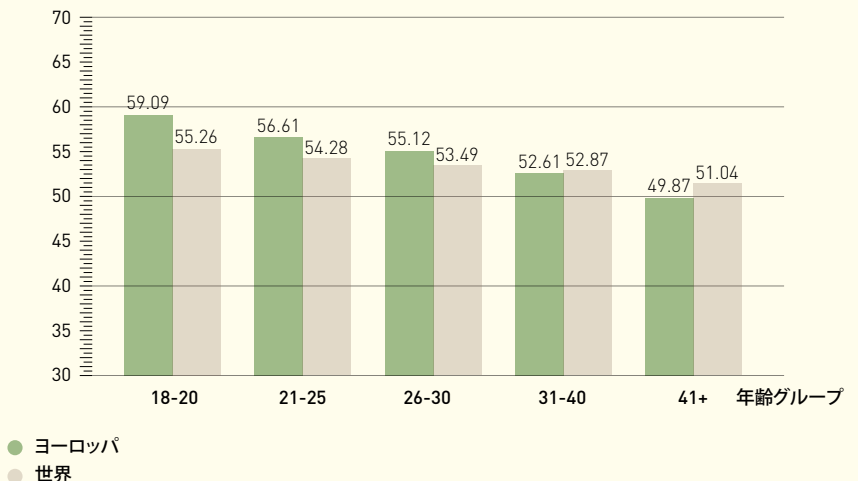
EF EPI スコア



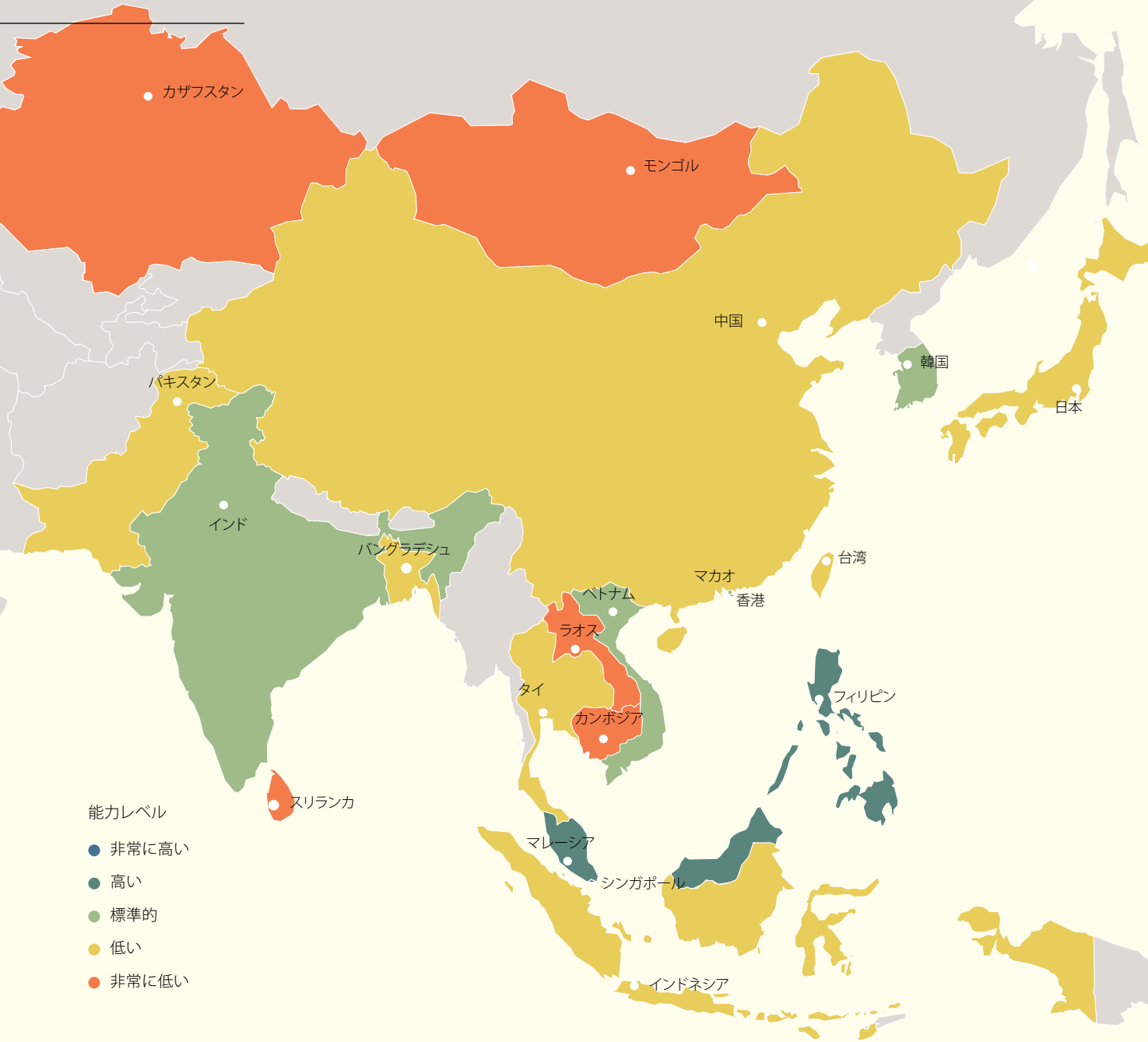
## 世代間の差

ヨーロッパでは、若年代の成人は引き続き世界の英語能力平均を上回っていますが、高齢層の成人は世界の平均、またはわずかに平均を下回っています。しかしながら、ほぼすべての年代グループで昨年よりも下降しており、21～25歳の若年成人グループでは2ポイント近くも下降しています。

EF EPI スコア



# アジア



## EF EPI ランキング

05	シンガポール	66.03	36	中国	52.45	53	タイ	49.78
13	マレーシア	61.07	37	日本	52.34	61	スリランカ	47.84
15	フィリピン	60.59	39	インドネシア	52.15	67	カザフスタン	45.95
27	インド	56.12	40	台湾	52.04	71	モンゴル	44.21
29	香港	55.81	42	マカオ	51.87	77	カンボジア	40.86
30	韓国	55.32	46	バングラデシュ	50.96	80	ラオス	37.56
34	ベトナム	53.43	52	パキスタン	49.88			

## アジアにおける英語: 大陸の多様性を反映

アジアの成人の英語能力平均は、ヨーロッパに続く世界第2位となっています。しかしながら、データを詳しく見てみると、アジアは他のどの地域よりも英語能力の格差が大きいことがわかります。

シンガポール、フィリピン、マレーシアは、今年の指標で上位四分の一にランクインしましたが、カンボジアとラオスは、最も低い10%内にランクされています。結果として、このレポートの分析結果は、アジア全域に適用できるものも一部あるかもしれませんが、トレンドや提案の大部分は、多様性に富み、人口の多いこの地域においては、一定グループにのみ関連します。

### 地域別トレンド

アジアでは経済統合が進んでいるものの、国家間での人の流動は依然として停滞したままです。アジアの人口は世界人口の約半数を占めながら、移民の割合はわずか17%です。移民希望者の多くは、ホスト国での合法的な居住に必要なビザを取得することができません。しかし、インド、インドネシア、パキスタンで人口に対する雇用が不足している一方で、日本や韓国では、高齢化が進むにつれて移民の必要性が高まっています。アジア全域での英語能力の向上に加え、切望される移民改革によって移住を促進することが、アジア最大の経済諸国の健全性を保つために必要となるでしょう。

英語を公用語とする国々と歴史的に結びつきのある国がその他のアジア諸国よりも高い英語能力を示す場合が多いですが、例外もあります。アジアで旧英国植民地だった国の中では、シンガポールの順位がアジア全体で最も高く、パキスタンとバングラデシュが共に低い英語能力レベルに入り、インドと香港は中間に位置しています。これらのすべての国々で、教育制度および社会全体において英語は特権的地位を持っています。

### 今後の課題

韓国、シンガポール、日本、香港の教育制度は、OECDの国際学習到達度調査(PISA)での学生のスコアが高いため、模範として度々取り上げられています。これらの国々では、学生一人ひとりに高い基準を求めることが一般的で、富裕層と貧困層の学生の能力差は比較的小さくなってます。しかしながら、これらの4か国の中で高いレベルで英語を指導しているのはシンガポールだけです。

英語学習は数学や科学に比べて暗記の必要性は低く、正確さも重要視されません。韓国、日本、香港における英語教育は、実践的なコミュニケーションよりも文法ルールに重きを置いたことで伸び悩んでいます。真の英語能力の向上を実現させなければ、会話練習を増やし、文法や語彙よりもコミュニケーションスキルを優先させた効果的な教育制度に方向転換しなければなりません。

今年のEF EPIでは、中国は昨年よりわずかな上昇を示しただけで、低い英語能力レベルに留まりました。中国ではこれまで以上に英会話能力のある人材を求めているにもかかわらず、顕著な改善が見られていません。ここ数年、中国国内の製造業における求人は減少し、2013年以降はサービス業が中国のGDPにおいて生産業よりも高い割合を占めています。労働力の大部分をサービス業主導の経済に向けて移行させるには、より高い英語スキルが求められます。これは簡単に達成できることではありませんが、明るい兆しも出ています。中国はコミュニケーション主体の言語教育を徐々に取り入れてきています。さらに、中国人成人は、年々英語の

トレーニングにより多額の投資を行っており、2016年には1億人を超える中国人が海外旅行ビザを取得しています。

カンボジア、タイ、モンゴル、ラオスのように成果の低い教育制度は多くの分野で致命的な欠陥を抱えています。これらの国々における教育改革ではまず、教育へのアクセスの拡大と教師の能力の向上に焦点を置く必要があります。

### 取り組み

アジア全域の国々が英語能力の強化に意欲を見せており、無数のプロジェクトが立案されてきました。教師を一斉に再訓練する取り組みから、英語のネイティブスピーカーとの接触を増やすための小規模なプロジェクトまで幅広いプロジェクトが立案されています。しかしながら、アジア地域の保護者は未だ公立学校の英語指導に満足しておらず、経済的に余裕がある家庭は有料の英語塾に子供を通わせています。シンガポールと香港では、ユーモアを使って成人に英語能力の向上を促すユニークな国民の意識向上キャンペーンが国の出資で何年も継続して実施されています。

# アジアにおける英語学習の取り組み

## シンガポール

非常に高い英語能力  
EF EPI スコア: 66.03  
80 か国中 05 位

### 正しい英語を話す運動

2000年にシンガポールのゴー・チョクトン首相は、「Speak Good English Movement (正しい英語を話す運動)」を立ち上げました。このキャンペーンは、シンガポール国民に現地で話されているシングリッシュではなく、標準英語を使って会話や読み書きすることを奨励しています。「Speak Good English Movement」では、年間を通してワークショップ、セミナー、コンテスト、プログラムを実施しています。現地の擁護団体は、このキャンペーンがシンガポールの文化や伝統の特色を示すシングリッシュを悪者扱いしていると批判しています。

## マレーシア

高い英語能力  
EF EPI スコア: 61.07  
80 か国中 13 位

### 英語教師の職業能力向上プログラム

英語教師の職業能力向上プログラム (Pro-ELT: Professional Up-skilling of English Language Teachers) は、マレーシアの教育省が資金援助を行い、マレーシアの初等・中等学校の教師の英語および指導スキルの育成を目指しています。2012年から、このプロジェクトはマレーシアの全 14 州で 15,000 人以上の教師に対するトレーニングを実施してきました。トレーニングに対するトレーニングを実施してきました。トレーニングそのものは、1年を通して毎週 6 時間のセッションを受けるか、または 4 週間の集中トレーニング 1 回で受けることができます。

## 香港

標準的な英語能力  
EF EPI スコア: 55.81  
80 か国中 29 位

### 職場英語キャンペーン

香港政府は 2000 年に、職場における英語の重要性の認識を高めることを目的とした「職場英語キャンペーン (WEC: Workplace English Campaign)」を開始しました。このキャンペーンは、幅広い英語の標準化テストを通して、さまざまな職種に就く従業員の英語の書き取りおよび会話の基準を設定する、香港職場英語ベンチマーク (HKWEB) を推進しています。WECは毎年、オンライン、ラジオ、テレビで意識向上キャンペーンを実施し、成人の英会話能力の向上を目的とした、無料で視聴できるいくつかのテレビ番組やラジオ番組を制作しています。

## 日本

低い英語能力  
EF EPI スコア: 52.34  
80 か国中 37 位

### スーパーグローバル大学創成支援事業

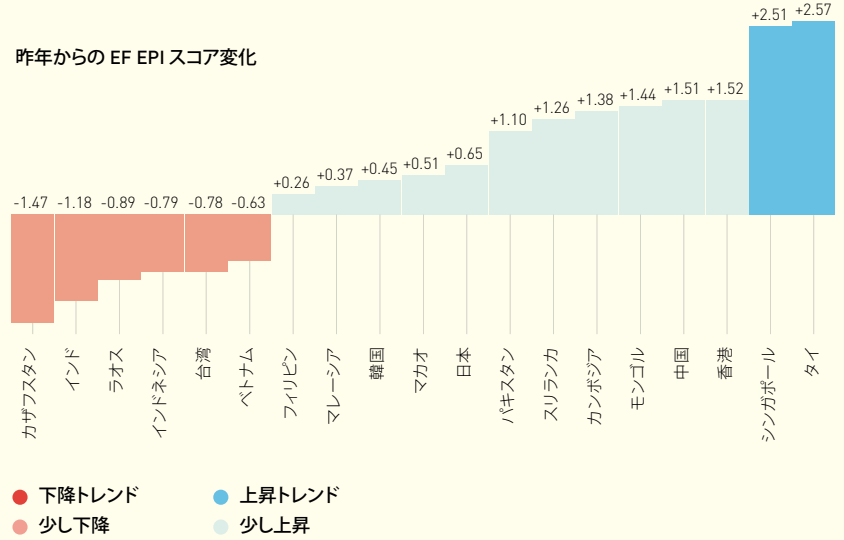
スーパーグローバル大学創成支援事業は、日本国内の高等教育の国際競争力の向上を目的とした、日本政府の資金援助によるプロジェクトです。このプロジェクトは 30 校以上の大学に公的資金を直接投入し、大学のプログラムの国際化を支援しています。資金の一部は英語コースの増設や外国人教授の雇用に充てられています。このプログラムは世界大学ランキングの上位にランクインする日本の大学の数を増やすことを目指しています。2016 年の時点では、Times Higher Education (THE) の世界大学ランキングで 100 位以内にランクインしたのは、東京大学 (39 位) と京都大学 (91 位) だけでした。



## EF EPIトレンド

アジア地域では、数か国が今年の EF EPI スコアで大幅な伸びを見せました。特にタイが素晴らしい上昇を見せています。タイは今年、非常に低い英語能力レベルを抜け出しています。シンガポールでも引き続き急速な改善が見られ、その一方でインドとカザフスタンが最も下降しています。

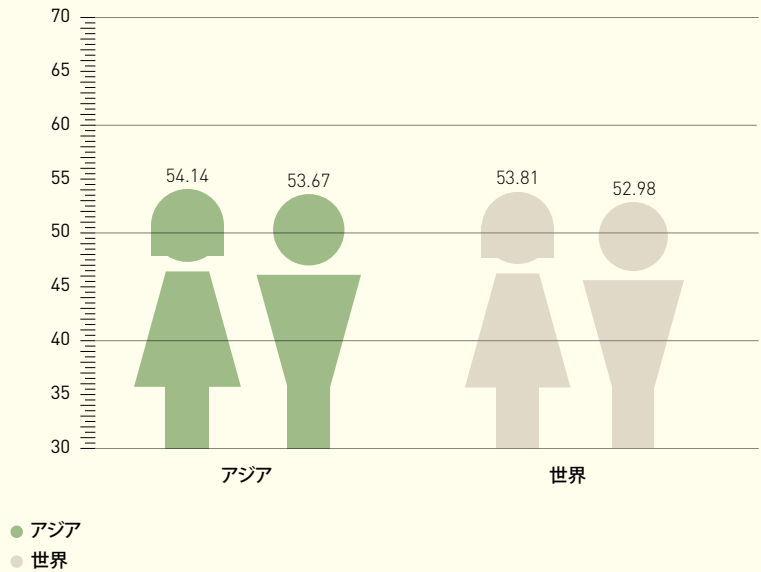
昨年からの EF EPI スコア変化



## 男女の差

アジアの男性と女性のスコアは、EF EPI の過去数年間の結果と同様、世界平均をわずかに上回っています。今年は、アジア人男性のスコアがわずかに上がり、アジア人女性のスコアは下がっています。

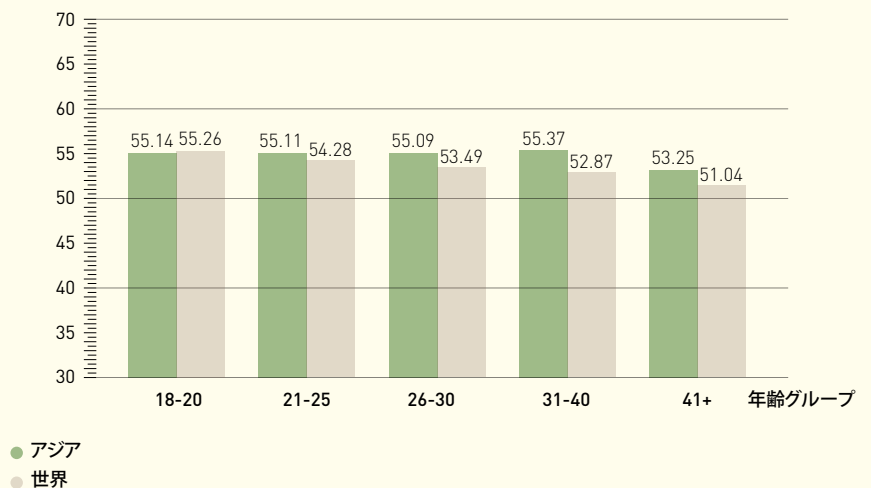
EF EPI スコア



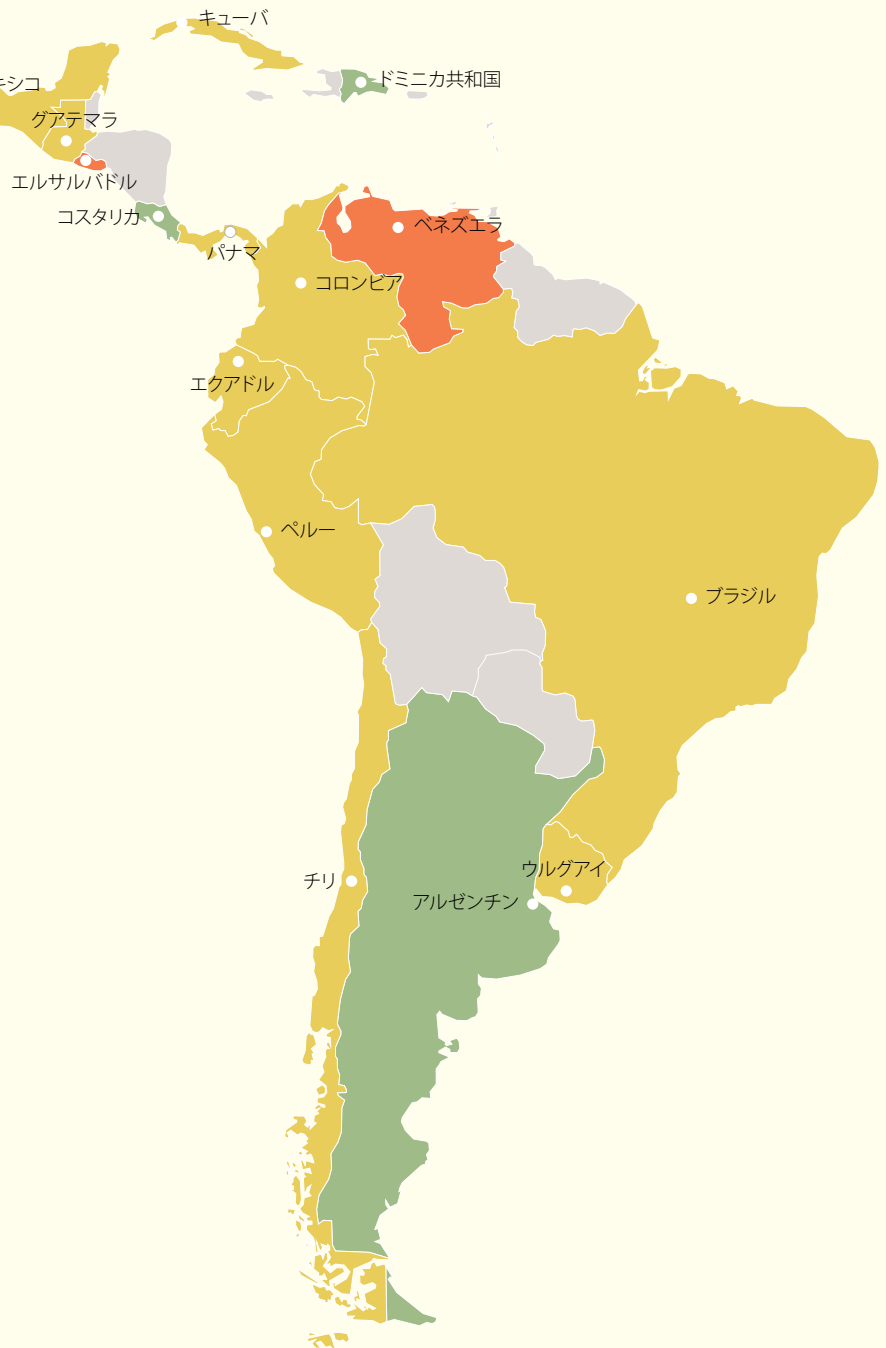
## 世代間の差

注目すべきは、アジアにおいて英語能力に世代間の差がほとんどないことです。アジア以外のすべての地域では、卒業後間もない若年層の英語能力が高齢成人よりも高くなっていますが、アジアでは 40 歳までの年代グループで英語能力が同等となっています。この結果により、過去一年におけるアジアの英語能力平均スコアが向上していないことも合わせ、この地域の学校や大学の英語指導法が改善されていないことが示唆されます。

EF EPI スコア



# 中南米



## 能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

## EF EPI ランキング

25	アルゼンチン	56.51	49	パナマ	50.68
26	ドミニカ共和国	56.31	50	ペルー	50.50
35	コスタリカ	53.13	51	コロンビア	49.97
41	ブラジル	51.92	54	グアテマラ	49.52
43	ウルグアイ	51.73	55	エクアドル	49.42
44	メキシコ	51.57	68	ベネズエラ	45.71
45	チリ	51.50	69	エルサルバドル	45.70
48	キューバ	50.83			

## 投資の甲斐なく、中南米の英語能力は未だ低迷

中南米では、各国間の英語能力の差がますます小さくなっており、最も能力の高いアルゼンチンと最も低いエルサルバドルとの差はわずか10ポイントです。

中南米全域で誰もが初等教育を受けられる環境が整ってから20年以上が経過し、過去10年間で、小学校を留年または中退する学生は減少しました。成人の識字率は、この地域のほぼすべての国で90%を超えています。教育への公共支出が上昇し、GDPの割合では現在ヨーロッパと肩を並べています。このような数々の成功や、米国やカナダとの広範な経済的、社会的関係にもかかわらず、中南米の英語能力レベルは依然として世界平均をわずかに下回ったままです。

### 地域別トレンド

農村地域の中には、依然として教育へのアクセスが問題となっている場所もありますが、中南米の主要課題は教育成果の低さです。UNESCOの試験結果では、中南米の小学校3年生の50%が数学の基礎レベルに到達しておらず、30%が基本的な読み書き能力を習得していないことが示されています。PISAの最新の結果では、中高生にも同様の傾向が見られます。このような教育成果の欠如には、英語およびその他の教科の指導に影響を与える教育制度内の広範な問題が反映されています。

地域全体において、教師の給与は低く、初期トレーニングやサポートが不足しており、職能開発機会にも恵まれていません。ブラジルでは、他の教科を担当している教師が、必

要なトレーニングを受けていないにもかかわらず、空いている時間に英語の授業を割り当てられることがよくあります。生徒数が定員を超える学校では、シフト制で授業を行っているため、時間が短縮され、英語の習得に必要な復習や練習を行う時間がほとんど残りません。

### 今後の課題

生徒の英語能力を向上させるために、中南米の国々はまず、教師の英語能力を向上させる必要があります。教師の英語能力をテストして、期待される英語能力レベルに達していない教師を再訓練することが必要です。資格を満たす英語教師を数多く雇い、英語教師の教員養成トレーニングを改善し、英語カリキュラムを標準化することも、非常に有益であると考えられます。

能力に応じた昇進、職能開発の定期的な機会、報酬がより効果的な教育制度を構築する助けとなるでしょう。また、より厳密な生徒評価も教育者が強化課題を特定し、効果的な改革を実施するのに役立ちます。

米国やカナダからの英語教師ボランティアを誘致している国々もありますが、このようなプログラムは一時しのぎの対策で、拡張性や持続性がありません。より生産的な代替案として、いくつかの国で既に検討されて

いる、教師と学生を北米に派遣して英語の向上を図り、優れた英語指導法を学ぶという方法があります。これらの交換留学プログラムは、自国で効果的な英語教師トレーニング制度を構築するよりも、はるかに高額ですが、簡単に導入することができ、選ばれた参加教師の意欲も飛躍的に高まります。

### 取り組み

中南米では英語能力向上のためのプログラムにおいて資金は、主に教師のトレーニングまたは学生の北米への交換留学に充てられています。この地域では英語が堪能な教師が不足しているため、トレーニングに重きを置いた取り組みは得策です。この他、テクノロジーを使い、他国にいる教師が質の高い授業を提供するプログラムなど、さらなる革新的な取り組みも進行中です。この取り組みは、高額な費用がかかる外国人教師交換プログラムに取って代わる、拡張性の高い代替策を提供するため、大きな可能性を秘めています。

# 中南米における 英語学習の取り組み

## ブラジル

低い英語能力

EF EPI スコア: 51.92

80 か国中 41 位

### 国境なき英語

ブラジル教育省は、2014 年に大学生の留学準備のための「English Without Borders (国境なき英語)」を立ち上げました。この取り組みにはイタリア語、英語、スペイン語、中国語(北京語)、ドイツ語、日本語、フランス語の 7 か国語が含まれており、対面式コース、自習型オンラインコースを通じた言語トレーニングに加え、レベル分けテストや能力テストが提供されています。関連プログラムの Science Without Borders (国境なき科学) では、2011 年から 2015 年にかけて 10 万人の学生が資金援助を受けて国外で理学修士・博士号を取得しています。

## ウルグアイ

低い英語能力

EF EPI スコア: 51.73

80 か国中 43 位

### PLAN CEIBAL 英語プロジェクト

ウルグアイでは 2012 年より、20 の学校で 4~6 年生の学生にアルゼンチン、英国、フィリピン、その他の国々の教師による遠隔英語レッスンを実施しています。2016 年までに、約 87,000 人の小学生が英語の遠隔レッスンを受けた。2015 年の内部評価では、「Ceibal in English」の遠隔レッスンを受けた 6 年生の 66% が語彙、文法、読解で A2 レベルに達し、40% がリスニング能力で A2 レベルに達しています。これらの結果は、プログラムに参加していない同学年の学生と比較して有意に高い割合でした。

## メキシコ

低い英語能力

EF EPI スコア: 51.57

80 か国中 44 位

### プロジェクト 100,000

「Project 100,000」は 2013 年に創設された公的奨学金基金で、2018 年までに 10 万人のメキシコ人学生を米国で短期集中英語コースに参加させる計画です。それと引き換えに、米国は 5 万人のアメリカ人学生をメキシコに留学させることを約束しています。このプロジェクトによって交換留学が促進されていますが、最近の米国の政治的圧力のために、メキシコ国内には「Project 100,000」の奨学生をカナダへ派遣し始めた大学もあります。

## パナマ

低い英語能力

EF EPI スコア: 50.68

80 か国中 49 位

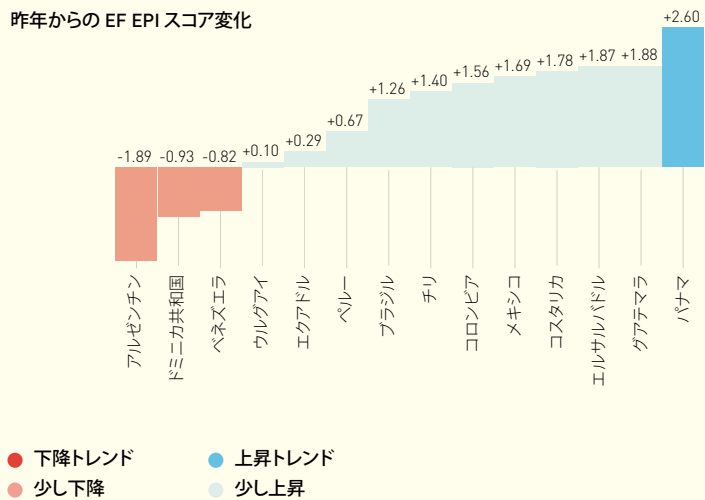
### パナマ・バイリンガル・プログラム

「Panama Bilingual Program (パナマ・バイリンガル・プログラム)」は 2014 年に開始され、現地および国外からの教師のトレーニングを通して英語能力を向上させることを目指しています。このプログラムでは、高校生を対象とした放課後の年間 300 時間の英語クラス、および幼稚園入園前から小学校 3 年生までを対象とした毎週 5~10 時間の英語クラスが義務付けられています。2016 年までに、このプログラムは 6,200 人の教師、1 万 3,800 人の高校生、26 万人の幼稚園入園前児童および小学生に影響を与えました。このプログラムの対象数は 2019 年までに、教師 2 万人、高校生 4 万 5 千人、幼稚園入園前児童および小学生 43 万 3 千人に到達する予定です。

## EF EPIトレンド

中南米のほぼすべての国で英語能力のわずかな上昇が見られ、グアテマラ、コロンビア、パナマは、非常に低い英語能力レベルから低い能力レベルに昇格しました。このような改善は、この地域が遅いペースながら着実に進歩していることを示す一例です。アルゼンチンは例外で、高いレベルから標準的なレベルへ下降しています。

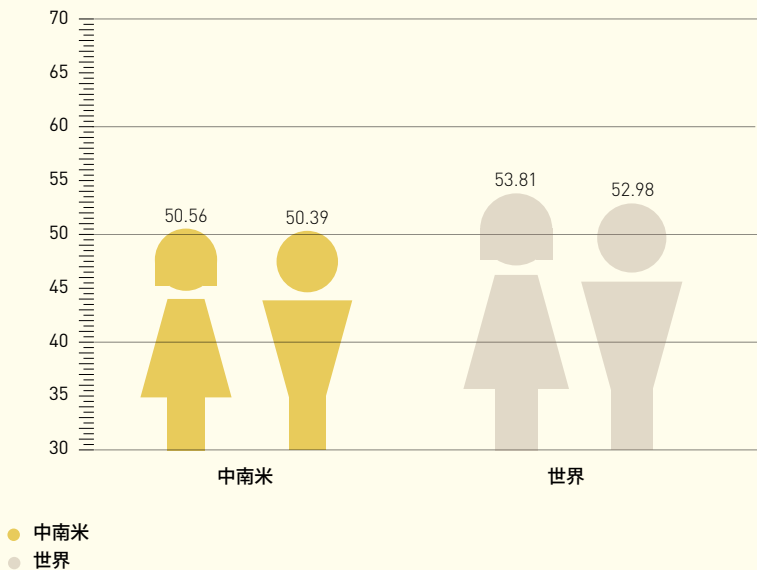
昨年からのEF EPIスコア変化



## 男女の差

中南米の男性と女性のスコアは共に世界平均を下回っています。他のほぼすべての地域とは対照的に、中南米における男女間の有意な統計差はなく、男性と女性の英語能力はほぼ互角です。

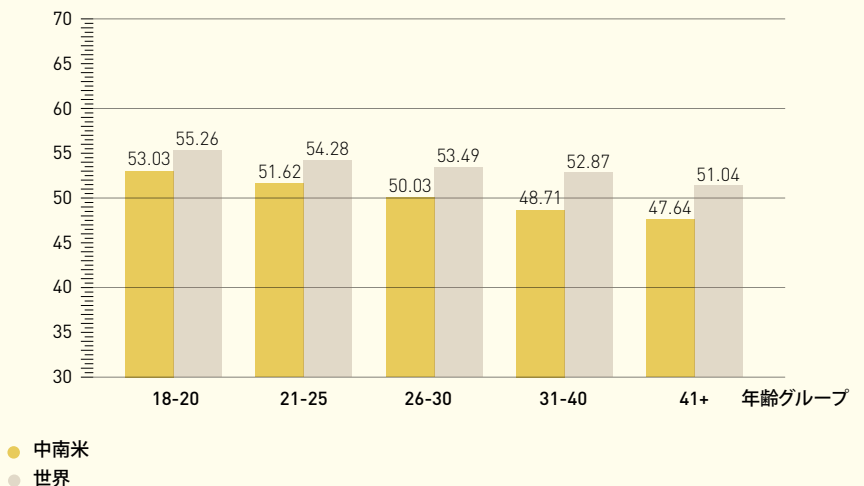
EF EPIスコア



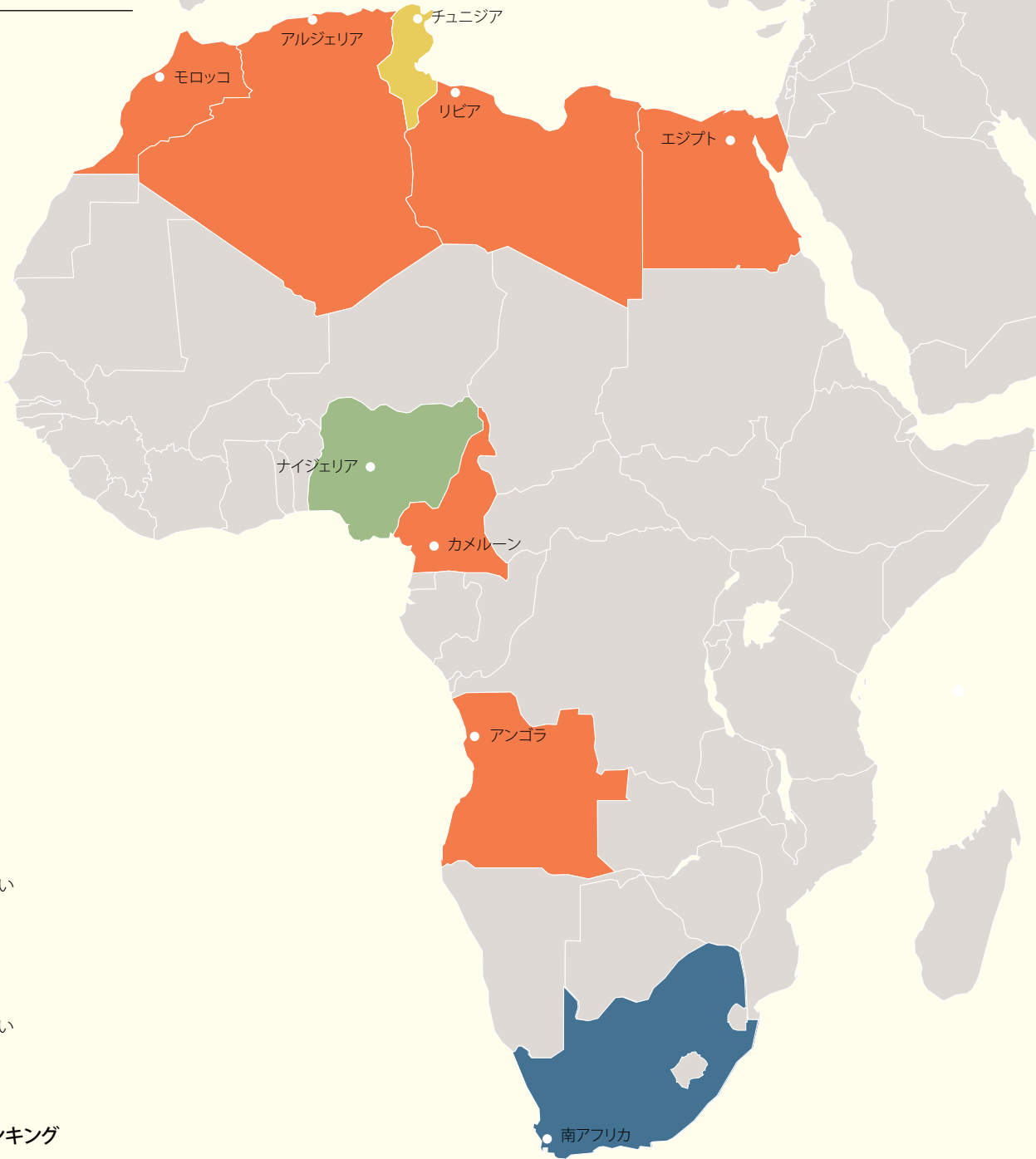
## 世代間の差

中南米地域のほぼすべての年代グループにおいて、今年は英語能力の有意な変化はなく、全グループが世界平均を下回ったままでした。中南米の若年層は、世界の同年代層と比べて改善していますが、この程度の向上では地域の今後のニーズに応えるには十分かもしれません。

EF EPIスコア



# アフリカ



## 能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

## EF EPI ランキング

<ul style="list-style-type: none"> <li>08 南アフリカ</li> <li>31 ナイジェリア</li> <li>56 チュニジア</li> <li>60 モロッコ</li> <li>66 エジプト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>63.37</li> <li>54.74</li> <li>49.01</li> <li>47.91</li> <li>46.51</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>73 アンゴラ</li> <li>75 カメルーン</li> <li>76 アルジェリア</li> <li>78 リビア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>43.49</li> <li>42.45</li> <li>42.11</li> <li>38.61</li> </ul>
---	---	--	--

## 著しい相違に特徴づけられるアフリカ地域の英語

アフリカの成人は平均的に低い英語能力となっていますが、南アフリカの成人は例外で、調査に参加した他のアフリカの国々よりも英語能力レベルがはるかに上回っています。

アフリカの人口は他のどの大陸よりも若者の年齢層が多く、人口の 50% 近くが 15 歳未満です。多くの国で成人の識字レベルが低く、農村部や都市の貧困層の学生に対する教育提供という困難に長い間直面しています。アフリカの一部の地域には、学校に一度も通ったことのない子どもたちが大勢います。このような状況の国々では、当然のことながら英語教育は重要視されていません。

### 地域別トレンド

過去 20 年間にわたり、アフリカでは教育を平等に受ける機会が大幅に改善されたにもかかわらず、大陸の多くの地域において就学前および中等教育へのアクセスは未だ乏しいままです。インフラが十分に整った場所ですら、仕事の少なさと教育と雇用の間に明確な結びつきがないため、学生が中等教育を修了する動機が欠如している場合が多いです。アルジェリアとチュニジアでは、30% を超える男子が中学校を卒業する前に中退しています。この 2 か国では、女子の方がはるかに高い確率で中学校を卒業しています。実際、アフリカにおける英語能力の男女差は他のどの地域よりも顕著で、女性が男性を大きく上回っています。

多くの国々で、授業に参加する学生の数はこれまでに増えています。教育指導の質は依然低いままです。実際に、Africa-America Institute の 2015 年のレポートでは、アフリカの小学校に通う生徒の中には、基本的な読み書きや算数の能力が学校にまったく通っていない児童とほとんど変わらない生徒がいることが報告されています。カメルーンなど、サハラ以南のアフリカの国々で

は、教師の欠勤が長く問題となっています。教師が出勤していたとしても、無免許の教師が多く、学校間で無計画に配属されています。2012 年のアフリカ大陸の小学校における、学生対教師の平均比率は 42:1 でした。年齢の異なる 70 名以上の学生が一つのクラスにいることも珍しくありません。民間機関、NGO、社会起業家が子どもの教育へまず介入しており、いくつかの国では、公立学校に対してチャーター・スクール (特別認可校) の有用性を試すためのパイロットプロジェクトが実行されています。

調査されたアフリカの国々のうち、3 か国では英語が公用語となっています。ナイジェリアでは、英語が唯一の公用語であり、無料ですが必修ではない公的教育制度では、指導言語に英語が採用されています。それにもかかわらず、ナイジェリアの英語能力が標準的でないのは驚くべきことです。これは、数百種類の言語が存在するナイジェリアの言語の多様性を反映しています。また、UN Monitoring Learner Assessment (MLA) のスコアが 28.6 (世界でも最も低い MLA スコア) であり、教育システムの欠陥も反映しています。これは学生にテストを行った際、教育カリキュラムの 28.6% しか理解していなかったことを意味します。比較すると、OECD (経済協力開発機構) の生徒の平均は 80% です。北アフリカでは、全国平均が約 65% となっています。

### 今後の課題

アフリカでは、人口の 4 分の 3 の人々がインターネットを使用していません。そのため、英語学習リソースや英語の資料へのアクセスは制限されています。インフラプロジ

ェクト、制度改革、携帯電話の普及によってアフリカ全土におけるインターネットアクセスが拡大することで、人々が英語に触れる機会が多くなります。

アフリカの若年層は雇用不安に直面しており、ヨーロッパや米国への頭脳流出が顕著です。その結果、多くの国々で特定の高い技能を持つ専門的な労働者が不足しており、その他の分野では大卒者の失業率が高くなっています。この地域の企業では、能力不足の労働力が企業成長の主な障害となっているため、アフリカの政策立案者は大学と民間セクター間の協調を強化し、大卒者の英語、起業家精神、および職業能力を訓練するためのプログラムを提供する必要があります。

### 取り組み

アフリカの国々はさまざまなアプローチ方法で英語能力の向上に取り組んでいます。英語が公用語ではない国々では、政策立案者は教師の再訓練と外国語としての英語の認知度を高めることを優先する傾向があります。英語以外の言語の国の植民地であった国々では、政策立案者による国際語としての英語の重要性やの認識が遅れている傾向があり、カリキュラムの改正も同様に遅れています。対照的に、英語を公用語とする国々では、異なる民族グループおよび言語グループ間の懸け橋として、英語の非常に重要な役割が認識されています。

# アフリカにおける 英語学習の取り組み

## 南アフリカ

非常に高い英語能力  
EF EPI スコア: 63.37  
80 か国中 08 位

### 大学の言語政策

高等教育におけるさらなる言語平等を求める声に応じて、ステレンボッシュとプレトリアは 2016 年に新しい言語政策を採用しました。2017~2018 年学年度から適用されるステレンボッシュ大学の新しい政策では、アフリカンス語に加えて英語とコサ語が大学の公用語となり、教授言語や構内でのコミュニケーション言語として使用されます。プレトリア大学の新しい政策では、英語が主要な教授言語として使用されます。どちらの場合も、大学をより包括的な環境とするための変革であると役員会メンバーは述べています。

## ナイジェリア

標準的な英語能力  
EF EPI スコア: 54.74  
80 か国中 31 位

### SPELLAFRICA

SpellAfrica は 2013 年に始業された社会的企業で、ナイジェリア国民向けの SMS ベースの英語語彙構築ツールです。現在 SpellAfrica は、国内で最も急成長を果たしたスタートアップ企業に成長し、事業を拡大して主に携帯電話向けにその他の英語学習サービスを提供しています。今年、SpellAfrica はスウェーデンの NGO、Action10 とパートナーシップを結び、「Back2School」というプログラム名の下、成人向けに対面式英語および読み書き能力の再訓練を開始しました。

## モロッコ

非常に低い英語能力  
EF EPI スコア: 47.91  
80 か国中 60 位

### バカロレア国際科

2014~2015 年学年度より、モロッコでは 3 校の公立高校に国際科が設けられています。国際科の学生は、他の学生と同じフランス語で指導されるカリキュラムを受けながら、英語またはスペイン語による追加指導を受け、さらにその第二言語を教授言語としたいいくつかの教科学習を行います。プロジェクトはまだパイロット段階ですが、2017 年にはこの 3 年間のプログラムから初の卒業生が誕生しました。

## アンゴラ

非常に低い英語能力  
EF EPI スコア: 43.49  
80 か国中 73 位

### ANELTA 教員ワークショップ

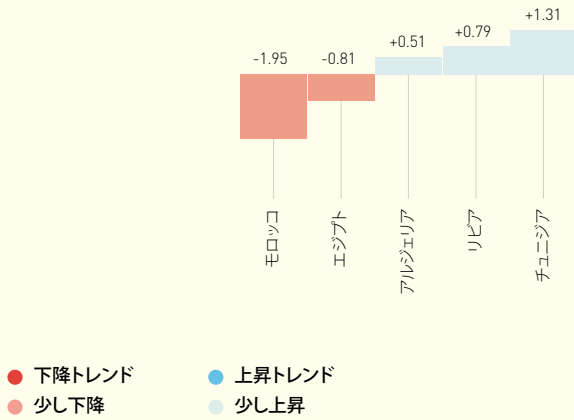
2015 年と 2016 年に、アンゴラ英語教員組合 (ANELTA) は、在アンゴラ米大使館およびアンゴラ教育省の協力を受けて、授業計画、授業管理、語彙構築など英語指導の問題点について 17 のワークショップを全国で開催しました。このワークショップには約 1,000 人の教師が参加しました。プロジェクトを通して、ANELTA は 15 の新たな地域へと拡大され、教師の日常的なサポート要求に応える現地オフィスを開設することができました。



## EF EPI トレンド

昨年の EF EPI に掲載されているアフリカの国々では、英語能力にわずかな変化しか見られませんでした。モロッコは上昇トレンドを逆行し、2 ポイント近くも下降して非常に低い英語能力へとレベルを落としました。

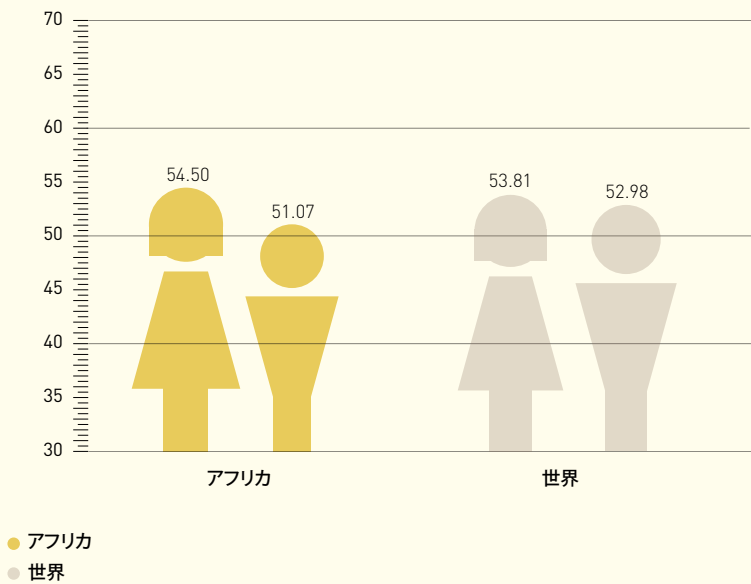
昨年からの EF EPI スコア変化



## 男女の差

中退率の低さと同調して、アフリカ人女性は男性よりも3 ポイント以上スコアが高くなっており、アフリカはどの地域よりも男女の差が大きくなっています。アフリカ人女性のスコアは世界平均をわずかに上回っており、アフリカ人男性は世界平均をわずかに下回っています。

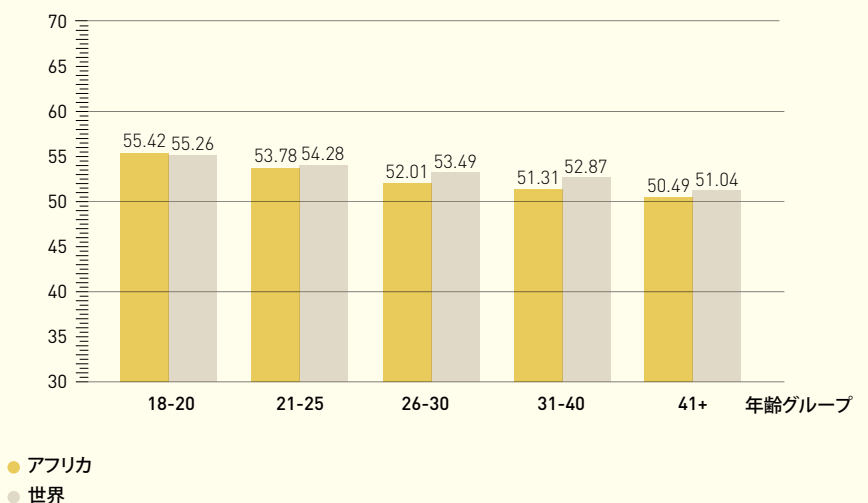
EF EPI スコア



## 世代間の差

アフリカの各年代グループは、世界平均と同等またはわずかに下回っています。この地域の明るい未来を示唆する兆しとして、若年層の 18~20 歳のスコアが世界平均を上回っています。

EF EPI スコア



# 中東

## 能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

## EF EPI ランキング

57 アラブ首長国連邦	48.88	70 オマーン	44.48
58 シリア	48.49	72 サウジアラビア	43.98
59 カタール	48.19	74 クウェート	43.14
63 ヨルダン	47.40	79 イラク	38.12
65 イラン	46.60		

## 中東では英語能力の低さが国際交流に悪影響

中東は最も裕福な地域の隣に深刻な貧困地域が存在し、安定した体制と戦争地帯が隣接するなど、地域の異種混交性にもかかわらず、地域全体での英語能力の低さは驚くほど均一です。

昨年と比較すると、中東のほぼすべての国の英語能力がわずかに向上しており、その中でもサウジアラビアが最も上昇しています。それでもなお、中東地域の平均的な英語能力は、学術または職業上で使用するには低すぎます。この状況は、本来ならば国際交流によって甚大な利益を得ることができるであろう、ヨーロッパ、アフリカ、アジアの交差点に位置する中東地域にとって非常に深刻な問題です。

### 地域別トレンド

中東の大多数の社会は著しく若く、地域全体として人口の推定 38% が 18 歳未満です。この地域では若者の失業率が高く、ほぼすべての国で若年男性の失業率は 20~30% となっており、若年女性においてはさらにその 2 倍の失業率となっています。また、高学歴の若者ほど高い失業率に苦しんでおり、状況をさらに複雑にしています。賃金が最も高く、最も安定した公営企業への就職が人気を集めていますが、増え続ける大学卒業生の数に対し、公営企業の求人数はほんのわずかです。より高い教育を受け、技術的な知識を持った若者の失業が、中東地域の社会的緊張のレベルを高めているのは想像に難くありません。

このような緊張を緩和する方法の一つは移住です。中東全体からヨーロッパや北米への頭脳流出が著しく、特に最も有能な専門家が流出しています。自国での安定した雇用を模索し始めた若い起業家たちもいますが、インターネットインフラの質の低さ、高い関税、変動的な通貨などの要因より、起業文化の確立が妨げられています。

### 今後の課題

中東では第二次世界大戦終了以降、激しい紛争が数多く経験されてきました。このような紛争によって、地域の一部に住む子どもたちに基礎教育を提供することが困難になっています。最も基礎的な教育さえ保証されていない状態で、英語能力について議論することは不毛です。

中東地域の安定した国々において、学校制度がすべての教師に対して質の高い英語の初期トレーニングを実施し、近代化された指導方法で小学校からすべての子どもたちに外国語として英語を教えるようになれば、英語能力は向上するでしょう。ペルシア湾岸諸国における教育技術への大規模な投資のほとんどは、学術コンテンツや教師トレーニングの資金ニーズと一致していません。その結果、学校は新しい技術を効果的に使用できずにいます。

中東地域の一部では、外国人英語教師への依存度が非常に高くなっています。これは国内における有資格講師の不足に対する一時的な解消にはなるかもしれませんが、長期的には質の高い現地教師のトレーニング制度の代わりにはなりません。大学レベルでは、海外分校を設け、アラブ諸国および非アラブ諸国の両方から講師と学生を国際的に集めている国もあります。このような国際交流の実施によって、学生の英語能力向上が期待できますが、現地の英語教師育成の支援プログラムに取り組むことでさらに大きな変化をもたらすことができます。

### 取り組み

中東では、政府が国際基準を満たしていない教育システムの特定の一部分を近代化または回避するために、英語教育の取り組みを大規模なプログラムに組み込む傾向があります。ペルシア湾岸諸国の経済的に豊かな国々では、テクノロジーと海外留学奨学生への投資に焦点が置かれることが多いですが、このような高価なプログラムは、石油価格の変動によって資金調達が脅かされる可能性もあります。

# 中東における 英語学習の取り組み

## アラブ首長国連邦

低い英語能力

EF EPI スコア: 48.88

80 か国中 57 位

### ムハンマド・ビン・ラーシド スマート学習計画

2012 年、アラブ首長国連邦は、国内の教室を変革するために新たなスマート学習イニシアティブ開始しました。この取り組みは、すべての公立学校に「スマートクラス」を導入し、英語やその他のオンライン教材へ容易にアクセスできる 4G ネットワークアクセスのタブレットを学生全員に配布します。この取り組みによって 2015 年までに、208 校の 3 万 4 千人を超える学生にタブレットが配布され、教師向けに 1,735 台のスマートスクリーンおよび 5,295 台のノートブックパソコンが支給されました。それでもなお、教育者の中から教師トレーニングの不足やオンライン教育素材への投資不足が新しい技術の教育的価値を制限しているという声も挙がっています。

## カタール

非常に低い英語能力

EF EPI スコア: 48.19

80 か国中 59 位

### カタールナショナル Eラーニングポータル

カタールをより世界に焦点をあてた国家に改新することを目的とした、「Qatar National Vision 2030」に対応するため、運輸通信省は 2016 年に「Qatar National e-Learning Portal (カタールナショナル eラーニングポータル)」を開始しました。このポータルは仮想インタラクションと自己練習レッスンによって、成人にさまざまな技能を教えています。カタールはこのポータルを使用して、2019 年世界陸上大会と 2022 年 FIFA ワールドカップに向けた案内担当者の英語訓練を実施しています。

## サウジアラビア

非常に低い英語能力

EF EPI スコア: 43.98

80 か国中 72 位

### アブドラ国王奨学金プログラム

2005 年、故アブドラ国王はサウジアラビア市民の海外留学を援助する奨学金プログラムを開始させました。アブドラ国王奨学金プログラム (KASP) の一環として、学生は学位課程を始める前に 4 か月間の英語トレーニングを受講します。このプログラムでは、授業料、渡航費、医療保険、および小遣いが支給されます。10 年間にわたり、KASP は海外の学士課程または修士・博士課程で学ぶサウジアラビア人学生の 90% に対して資金援助を行ってきました。プログラム開始から数十万人の学生を支援してきた KASP ですが、石油価格の低下によりサウジアラビア政府はプログラムの規模を縮小せざるを得ず、サウジアラビア人学生と英語を公用語とする国の大学の両方が資金不足に悩まされています。

## クウェート

非常に低い英語能力

EF EPI スコア: 43.14

80 か国中 74 位

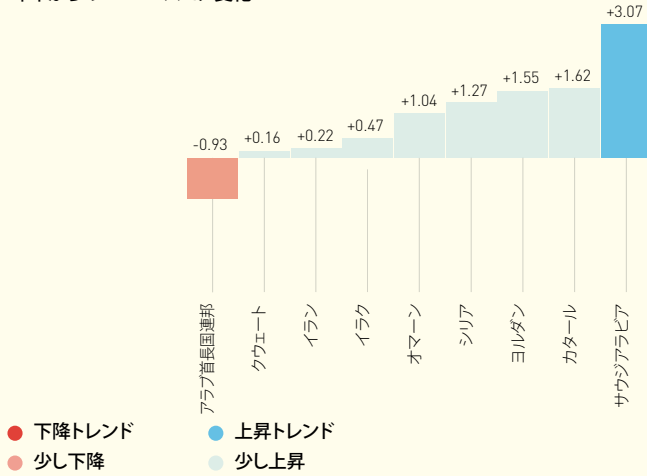
### 英語教授法総合監修部

クウェートの教育省の「英語教授法総合監修部」は、国家カリキュラムの標準設定から指導教材の準備、評価まで、国家の英語指導の方向性を調整する責任を持つ部門です。この部門が運営するウェブサイトでは学生と教師向けに英語資料が提供されており、フィードバックを送信することもできます。教育省は 12 年間の英語学習を義務化していますが、公立学校の生徒の英語能力は未だ低迷しており、2010 年の調査では教師の準備不足と専門性の欠如が低迷の原因である可能性が示唆されています。

## EF EPI トレンド

今年、サウジアラビアが大幅な向上を見せた一方で、中東の大部分の英語能力は非常に低い英語能力レベルに留まっています。それでも、アラブ首長国連邦を除くほぼすべての国で今年はわずかな上昇が見られました。

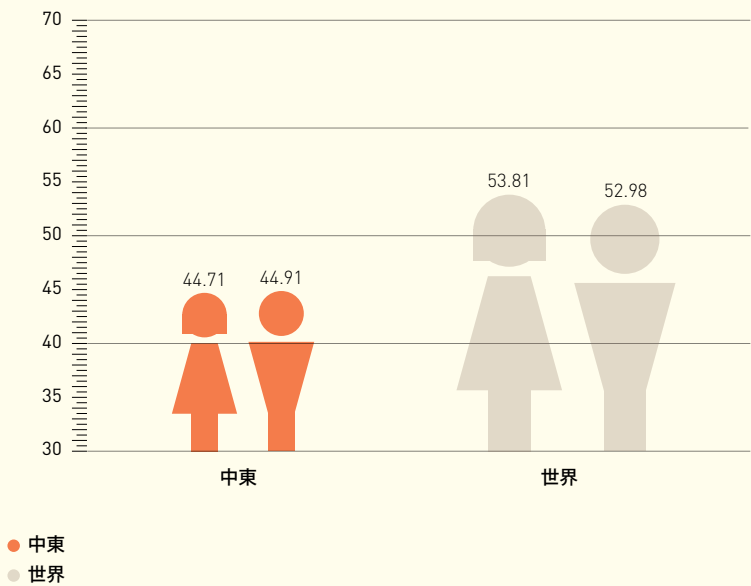
昨年からの EF EPI スコア変化



## 男女の差

中東では男女共に英語能力改善に遅れが見られ、スコアが世界平均を 10 ポイント近く下回っています。中南米と同様、男女間の統計的有意差はありません。

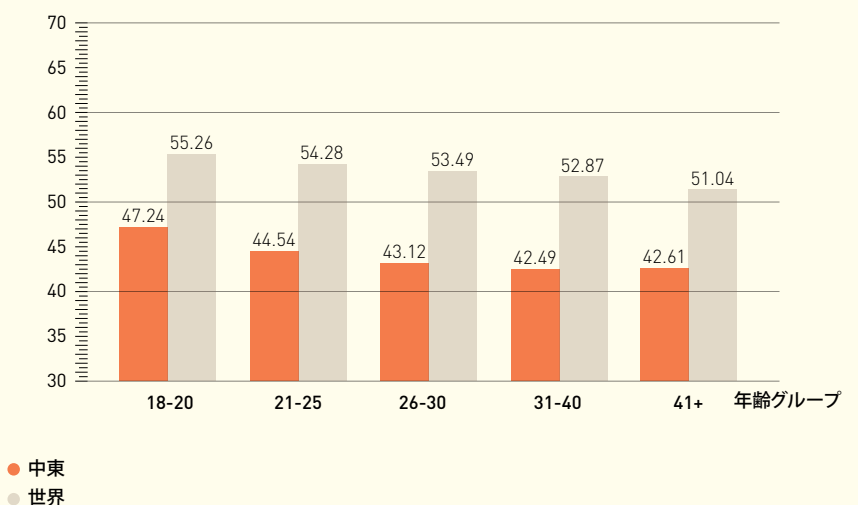
EF EPI スコア



## 世代間の差

中東ではすべての年代グループが世界平均を下回っています。若年層の成人が他のグループを上回っていますが、人口増加の続く中東地域で英語能力を効果的に向上させるためには、この傾向をさらに加速させていく必要があります。

EF EPI スコア



# 結論

毎年、各国では国民の英語能力を向上させるために莫大な資金が費やされています。外国語の習得には数十年とは言わないまでも何年もの歳月が必要で、すべての人に合う万能なアプローチは存在しません。国家の英語レベルを向上するために適用可能なアプローチの幅広さをご覧いただくため、今年のレポートでは 20 か国における英語学習の取り組みを紹介しました。

学生から専門家、退職者まで、さまざまな属性の人々が英語学習に意欲を持っているため、標準化された単一の英語教育アプローチを選ぶことは困難です。アプローチを一つ選択するのではなく、プログラムを多様なターゲットグループのニーズや弱点に適応させる必要があります。あらゆる段階にいる人々を柔軟にサポートできる政策が成功の鍵となるでしょう。

限られたリソースの中で、指導者は非営利団体、高等教育機関、民間機関と協力し合い、次のような包括的な計画を作成することが理想的です。(a) 各ターゲット層のニーズを明確に特定、(b) 現実的で計測可能な目標を設定、(c) 目標を達成するためのプログラムを支援。当社の知る限りでは、これまでにこのような包括的なプランを策定した国はなく、機会が失われていると考えます。

それでもなお、このレポートで紹介されている 20 の取り組みでは、多様な人々の英語能力不足に対処するための幅広い可能性が示されています。

- **教授言語としての英語:** 多くの私立学校が、カリキュラム全体または一部で英語を教授言語 (EMI) として使用しており、英語を公用語としない国々の多くで、公的な教育システムにおける EMI のより大規模な使用が実験されています。例えば、スペインとパナマにはバイリンガルプログラムがあり、モロッコの高校では英語が強化された授業が実施されています。しかしながら、英語での授業でも、母国語で学ぶ場合と同等に学習内容を効果的に学べるようにすることが必要不可欠です。
- **国際化する高等教育:** 海外からより多くの留学生や教員を集め、世界大学ランキングで高い順位を獲得するため、世界中の大学は英語で指導する授業数を増やし、英語で論文を発表できる教員を多く求めています。日本、南アフリカ、ロシアでは、大学での英語使用を増やすための国家プログラムが進行中で、その他の国々でも多数の大学が独自に同様の調整を行っています。
- **カリキュラム改革と標準化された評価方法:** 各国では、競争の激しい国際求人市場に向けて学生を準備しており、国際基準に沿った外国語カリキュラムや評価が導入されています。クウェートやドイツでは、カリキュラム基準や標準化された評価方法を設定するための国家的機構が創設され、多くの場合、国際基準に合わせた調整が行われています。国際評価での学生の成果が低い場合は辛い状況になり得ますが、問題を浮き彫りにすることが解決への糸口になります。
- **大学生を対象とした海外留学生奨学金:** 最も一般的に行われている英語トレーニングへの投資は、大学生の海外留学のための奨学金支援です。このようなプログラムは教育改革よりも政治論争性が低く、より簡単に導入することができ、学生に非常に人気があります。サウジアラビア、ハンガリー、メキシコでは比較的に大規模な奨学金プログラムが実施されており、ブラジルは学生が海外で成功するための準備を行う、言語予備クラスを実施しています。
- **成人のトレーニング:** 社会人の英語能力向上を直接の目的とした国家的な取り組みを行っている国はほとんどないのが現

状です。シンガポールと香港では、成人の英語能力向上を奨励するキャンペーンが長年実施されています。もちろん、企業や個人による英語トレーニングへの投資は頻繁に行われており、継続教育を経済的に補助する計画の中にも、多くの場合外国語学習の選択肢が含まれています。しかしながら、このような取り組みが国家レベルで組織化されることは滅多にありません。

- **技術支援型学習:** ウルグアイは、全小学生児童にノートブックパソコンを配布しており、アラブ首長国連邦は、すべての学生に4G 接続のタブレットを配布しています。これらの端末は、英語を含む複数科目の個別指導を行うのに役立つと考えられています。しかしながら、教師が今後新しい技術を効果的に活用できるようになるかは明確ではありません。ウルグアイは英語を母国語とする国の教師と小学校の教室をインターネットでつなぐ取り組みも行っており、ナイジェリアは SMS 技術を活用して英語教育へ簡単にアクセスできる環境を作っています。成人の学習者向けには、英語の職業訓練へ便利にアクセスできるカタールのオンライン教育ポータルのようなツールが役

立てられています。技術支援型の英語指導は、まだ多くの人々に認知されてはいませんが、真の可能性を秘めています。

- **現地の英語教師のトレーニング:** 教師はあらゆる教育システムの中心であり、学校における英語指導のレベルを上げるには、英語教師の技能再教育と初期教員訓練の改善が必要不可欠です。そのような取り組みには、マレーシアの英語教師の職業能力向上プログラムのように構造化された国家規模のプログラムや、アンゴラの組合主導の地元の集まりのような有望な新しい取り組みが含まれます。英語教師は英語を上手に話せるだけでは十分ではありません。教師には継続的な専門的サポート、実践的な訓練、適切な施設や教材に加え、重要な仕事に従事していることに対して正当に評価されることも必要です。

英語能力のある人材との未来に向けて、国家や企業の舵を取るには、多大な努力と投資が必要です。当社による世界における成人の英語能力トレンドのデータと分析を共有することで、英語教育の将来についての議論に貢献できることを願っています。

### 分析方法

EF EPI 英語能力指数は版を重ねる度に、信頼できるソースとしてジャーナリストや教育者、選出議員、ビジネスリーダーなどに引用される機会が増えてきました。EFは、現在も世界中で続いている英語教育に関する議論に貢献できることを嬉しく思っています。

この EF EPI 第 7 版は、2016 年に 3 種類の EF 英語標準テスト (EF SET) を受けた 100 万人を超える試験受験者のテストデータを基にしています。

### EF 英語標準テスト

EF EST は、オンラインで受けられる読解力とリスニング力を測る適応型英語テストです。当テストは標準化され、客観的にスコア付けされており、受験者の語学能力を Common European Framework of Reference (CEFR) によって定義された 6 つのレベルの一つに分類できるよう設計されています。EF SET の研究および開発についての詳細は、[www.efset.org/research](http://www.efset.org/research) をご参照ください。

EF EPI は 3 種類の EF SET の結果に基づいています。その内、2 種類の試験はインターネットユーザーであれば誰でも無料で受けることができます。3 つ目の試験は、EF が英語コースの入学手続き過程で使用しているオンライン実力試験です。EF SET の複数のバージョンを受けた 4 万 8,200 人の試験受験者に対して分析を行い、均一で一貫した分析方法を確立しました。

EF EPI 2017 の各国スコアには、TOEFL iBT 2016 の各国スコア ( $r = 0.82$ ) および IELTS Academic Test 2015 の各国スコア ( $r = 0.71$ ) と強い相関関係があることがわ

かりました。このような相関関係から、これらの試験にはデザインや受験者のプロフィールに違いがありながらも、国の英語能力において同様のトレンドがあることが分かります。

### 試験受験者

EF EPI 英語能力指数の試験受験者サンプルは、回答者が言語学習の意欲がある人に偏り気味ではありますが、男女の人数に差はなく、幅広い年齢の成人言語学習者が含まれています。

- 女性回答者はサンプル全体の 47.8% を占めています。
- 成人受験者の年齢の中央値は 26 歳です。
- 全回答者の 79% が 35 歳未満、99% が 60 歳未満となっています。
- 受験者の年齢の中央値に男女の差はありません。

回答者は英語学習に対する関心が動機となつて試験に参加しているため、サンプルは主に労働年齢の成人によって形成されていますが、学生やキャリアを始めたばかりの人が多い傾向があります。

この指数には、受験者数が 400 人以上の受験者の国だけのデータを使用していますが、受験者数が 400 人をはるかに超えている場合がほとんどでした。合計で 80 の国と領域が含まれています。

### サンプリングの偏り

この指標で表されている受験者は任意で受験した人々であり、その国全体のレベルを代表するわけではありません。英語を勉強した

かと思っている人、あるいは自分の英語力を知りたいと思っている人だけがこの試験を受けているため、一般人口よりも高いまたは低いスコア結果になっている可能性があります。試験の結果によって証書が出されたり、プログラムに入学できるといった特典があるわけではないので、受験者が不正行為や詰め込み勉強によって点数を上げるというようなことはありません。

この試験は無料でオンライン受験ができるため、インターネット接続がある人なら誰でも参加することができます。受験者の大多数が労働年齢または学業を修了したばかりの若年層の人たちです。インターネットにアクセスできない人は含まれていません。インターネットの使用率が低い国の結果では、このような受験者の除外による影響を大きく受けていると考えられます。このようなサンプリングのバイアスは、低所得や教育を受けていない人々を含む一般人口の平均スコアよりも実際のスコアを高くする傾向があります。それでもなお、インターネットを使った自由参加型の試験方法は、世界の英語能力レベルについて膨大なデータを収集するのに効果的であることが証明されています。

### スコアの計算方法

各国の EF EPI スコアを計算するため、各テストスコアを標準化してテストの回答正解率を算出しました。各国の全スコアは、各テストに同じ重みを持たせるよう、3 テスト間で平均化され、地域および世界平均は、各地域に含まれる各国の人口によって補正されています。

それぞれの国はスコアに応じて能力別グループに分けられています。能力別グループに



分けることで、どの国が同等の英語能力を持っているか認識でき、また近隣諸国との比較も可能になります。能力レベルは、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) と EF のコースレベルの基準で区切られています。

- 非常に高い英語能力は、CEFR レベルの B2 に相当します。
- 高い、標準的、および低い英語能力は、CEFR レベルの B1 に相当し、各能力グループがそれぞれ一つの EF コースレベルに相当します。
- 非常に低い英語能力は、CEFR レベルの A2 に相当します。

各グループの英語学習者の技能についての詳細は、42~43 ページをご参照ください。

#### その他のデータソース

EF EPI は EUROMONITOR や GALLUP などの世論調査組織が行っている調査や OECD が行っている PISA や PIAAC などの技量調査とは全く異なった作業手順で作成されています。これらの調査では、年齢、性別、教育レベル、収入などのさまざまな要因を使って調査参加者を選択しています。このようなパネル調査は小規模になる傾向があり、多くても一国あたり数千人の参加者となりますが、複雑なサンプリング手法を使用して調査を行うことにより、その結果は人口全体の傾向を表すと考えられています。

英語能力に関するもう一つの参照データは、国家の教育制度によって作成されたものです。多くの国々がすべての高等学校で標準化した全国的評価試験を使った英語スキルの評価を行っています。試験の結果は、公開されているものも非公開のものもある

かもしれませんが、教育者と政府関係者は教育改革の有効性の評価や、改善が必要な分野を特定するために試験結果を利用しています。残念なことに、このような全国的評価は国家間で比較されるものではなく、さらに成人は実施対象となっていないため、一国における高校生の英語能力の長年に渡る変化を知るための良い指標であるにもかかわらず、国家間で学生を比較することも成人の英語能力レベルについて知ることもできません。

EF EPI は、国家試験の結果や言語世論調査 データ、その他いかなるデータとも競合することや、否定することを目的としていません。このようなデータセットはお互いを補完し合うものであります。1 つの年齢グループ、国、受験者プロフィールだけに焦点をあてた精細な情報も存在しています。EF EPI は共通の評価方法を用いて、世界中の労働年齢の成人の英語能力を幅広く調査しています。これだけの規模と照準を持ったデータは他には存在しないため、いくつかの制限はあるものの、当社は多くの政策立案者、学者、分析者とともに、英語教育について世界的な議論をする際の価値ある参照基準になると考えています。

#### 関連 EF EPI レポート

EF EPI のリサーチシリーズには次の 3 種類のレポートがあります: 成人の英語能力を分析した主要なレポートであるこの EF EPI レポート、労働人材の英語能力を分析した EF EPI for Companies (EF EPI-c)、世界中の中学生、高校生、および大学生の受験者を対象とした EF EPI for Schools (EF EPI-s)。今年、EF EPI 第 7 版に加え、EF EPI-s 第 2 版を公開しています。EF EPI-c

第 3 版は 2016 年に公開されました。すべてのレポートは、[www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi) からダウンロードすることができます。

#### EF EDUCATION FIRST (イー・エフ・エデュケーション・ファースト)

イー・エフ・エデュケーション・ファースト ([www.ef.com](http://www.ef.com)) は、1965 年に「opening the world through education」(教育を通して世界を切り開く) を使命として創設され、現在、54 か国に 500 を超える学校とオフィスを所有する国際教育機関です。平昌 2018 オリンピック冬季競技大会のオフィシャル教育サービスパートナーです。EF 英語能力指数 ([www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi)) は、イー・エフ・エデュケーション・ファーストのリサーチ・イノベーション部門であるイー・エフ・ラーニング・ラボによって発行されています。

## EF EPI 能力レベルについて

EF EPI能力レベルを見ることによって、同様のスキルレベルを持つ国々の特定や、地域内および地域間での比較が簡単にできるようになります。各能力レベルに記載されているタスクは、各レベルにおいて個人が実行できるタスク例を示しています。各レベルにおける上位3ヶ国が一覧に記載されています。EF EPIは英語を母国語としない国と領域のみを調査の対象としています。

EF英語能力指数は、調査に参加した国と領域を英語能力が「非常に高い」から「非常に低い」までの5段階にグループ分けしています。能力別グループに分けることで、どの国が同等の英語能力を持っているか認識でき、また近隣諸国との比較も可能になります。次のページでは、各能力レベルにおいて個人がどのようなタスクを行うことができるかを示すタスク例の一覧をご覧ください。タスクは包括的に選択されたものではありませんが、レベ

ル間においてどのように英語スキルが向上していくかを理解するための参考資料としてお役立てください。

各国の能力レベルは、その国内にいる「平均的な」受験者のレベルを単純に示唆するものではありませんのでご注意ください。EF EPIは国と領域の比較を行うことを目的としており、個々の受験者の得意分野や不得意分野については、分析の対象からはずしています。

能力レベル	タスク例
<b>非常に高い英語能力</b> オランダ スウェーデン デンマーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 社会生活の場面で正しい意味合いを持たせた適切な言語を使用できる</li> <li>✓ 高度な文章を簡単に読むことができる</li> <li>✓ 英語のネイティブスピーカーと契約交渉ができる</li> </ul>
<b>高い英語能力</b> ドイツ オーストリア ポーランド	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 職場でプレゼンを行っている</li> <li>✓ テレビ番組を理解できる</li> <li>✓ 新聞を読む</li> </ul>
<b>標準的な英語能力</b> ブルガリア ギリシャ リトアニア	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 専門分野における会議に参加している</li> <li>✓ 歌の歌詞を理解することができる</li> <li>✓ 熟知した内容についてプロフェッショナルなメールを書くことができる</li> </ul>
<b>低い英語能力</b> 中国 日本 ロシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 観光客として英語を話す国を旅することができる</li> <li>✓ 同僚とちょっとした会話ができる</li> <li>✓ 同僚からの簡単なメールを理解することができる</li> </ul>
<b>非常に低い英語能力</b> シリア カタール モロッコ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 簡単な自己紹介(名前、年齢、出身国)ができる</li> <li>✓ 簡単な合図を理解できる</li> <li>✓ 海外からの訪問者に基本的な指示をすることができる</li> </ul>

---

熟練者	C2	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	C1	難度の高い様々な内容の長文を理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の内容を理解できる。緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
	B1	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。経験、出来事、夢、希望、意志を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合い、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。
	A1	ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

---

ヨーロッパ評議会の言葉

EF EPI の全ての国はレベル A2 ~ B2 の範囲に入っている。

# EF EPI 各国スコア

過去からの英語能力の変化を見てみましょう。

EF EPI スコア変化は、各国の EF EPI 第 6 版と第 7 版における差を示しています。2 ポイント以上の変化（上昇または下降）は、英語能力の大きな移り変わりを示唆しています。EF EPI 第 6 版は 2015 年に収集された試験データを使用しており、第 7 版は 2016 年のデータを使用しています。

国	EF EPI 第 6 版	EF EPI 第 7 版	スコア変化
アルジェリア	41.60	42.11	+0.51
アンゴラ	—	43.49	新
アルゼンチン	58.40	56.51	-1.89
オーストリア	62.13	62.18	+0.05
アゼルバイジャン	46.90	46.97	+0.07
バングラデシュ	—	50.96	新
ベルギー	60.90	61.58	+0.68
ブラジル	50.66	51.92	+1.26
ブルガリア	56.79	57.34	+0.55
カンボジア	39.48	40.86	+1.38
カメルーン	—	42.45	新
チリ	50.10	51.50	+1.40
中国	50.94	52.45	+1.51
コロンビア	48.41	49.97	+1.56
コスタリカ	51.35	53.13	+1.78
キューバ	—	50.83	新
チェコ共和国	59.09	57.87	-1.22
デンマーク	71.15	69.93	-1.22
ドミニカ共和国	57.24	56.31	-0.93
エクアドル	49.13	49.42	+0.29
エジプト	47.32	46.51	-0.81
エルサルバドル	43.83	45.70	+1.87
フィンランド	66.61	65.83	-0.78
フランス	54.33	54.39	+0.06
ドイツ	61.58	62.35	+0.77
ギリシャ	—	57.14	新
グアテマラ	47.64	49.52	+1.88
香港	54.29	55.81	+1.52
ハンガリー	58.72	58.61	-0.11
インド	57.30	56.12	-1.18
インドネシア	52.94	52.15	-0.79
イラン	46.38	46.60	+0.22
イラク	37.65	38.12	+0.47
イタリア	54.63	54.19	-0.44
日本	51.69	52.34	+0.65
ヨルダン	45.85	47.40	+1.55
カザフスタン	47.42	45.95	-1.47
クウェート	42.98	43.14	+0.16
ラオス	38.45	37.56	-0.89
リビア	37.82	38.61	+0.79

国	EF EPI 第 6 版	EF EPI 第 7 版	スコア変化
リトアニア	55.08*	57.08	+2.00
ルクセンブルグ	63.20	64.57	+1.37
マカオ	51.36	51.87	+0.51
マレーシア	60.70	61.07	+0.37
メキシコ	49.88	51.57	+1.69
モンゴル	42.77	44.21	+1.44
モロッコ	49.86	47.91	-1.95
オランダ	72.16	71.45	-0.71
ナイジェリア	—	54.74	新
ノルウェー	68.54	67.77	-0.77
オマーン	43.44	44.48	+1.04
パキスタン	48.78	49.88	+1.10
パナマ	48.08	50.68	+2.60
ペルー	49.83	50.50	+0.67
フィリピン	60.33	60.59	+0.26
ポーランド	61.49	62.07	+0.58
ポルトガル	59.68	58.76	-0.92
カタール	46.57	48.19	+1.62
ルーマニア	58.14	59.13	+0.99
ロシア	52.32	52.19	-0.13
サウジアラビア	40.91	43.98	+3.07
セルビア	59.07	59.37	+0.30
シンガポール	63.52	66.03	+2.51
スロバキア	57.34	57.63	+0.29
南アフリカ	—	63.37	新
韓国	54.87	55.32	+0.45
スペイン	56.66	56.06	-0.60
スリランカ	46.58	47.84	+1.26
スウェーデン	70.81	70.40	-0.41
スイス	60.17	60.95	+0.78
シリア	47.22*	48.49	+1.27
台湾	52.82	52.04	-0.78
タイ	47.21	49.78	+2.57
チュニジア	47.70	49.01	+1.31
トルコ	47.89	47.79	-0.10
ウクライナ	50.62	50.91	+0.29
UNITED ARAB EMIRATES	49.81	48.88	-0.93
ウルグアイ	51.63	51.73	+0.10
ベネズエラ	46.53	45.71	-0.82
ベトナム	54.06	53.43	-0.63

\* この国は EF EPI 第 6 版には掲載されていないため、それ以前の版の EF EPI からのスコアが掲載されています。

Africa-America Institute. (2015). State of Education in Africa Report 2015. Retrieved from <http://www.aaionline.org/wp-content/uploads/2015/09/AAI-SOE-report-2015-final.pdf>

Arbaoui, L. (2014). After French and Spanish, Morocco to introduce English baccalaureate. Morocco World News. Retrieved from <https://www.morocroworldnews.com/2014/07/133950/after-french-and-spanish-morocco-to-introduce-english-baccalaureate/>

British Council. (2014). Ceibal en Inglés. Retrieved from <https://www.britishcouncil.uv/en/programmes/education/ceibal-en-ingles>

Central Intelligence Agency. (2017). The World Factbook. Retrieved from <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/>

Council of Europe. (2017). Language Education Policy Profiles. Retrieved from [http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Profils1\\_EN.asp](http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Profils1_EN.asp)

Council of Europe. (2001). Common European framework of reference for languages: Learning, teaching, assessment. Cambridge, U.K: Press Syndicate of the University of Cambridge.

The Economist. (2016). Youth unemployment in the Arab world. Retrieved from <http://www.economist.com/blogs/graphicdetail/2016/08/daily-chart-7>

Euromonitor International. (2016). Retrieved from <http://www.euromonitor.com/income-and-expenditure>

European Commission/EACEA/Eurydice Facts and Figures. (2015). National Sheets on Education Budgets in Europe 2015. Luxembourg: Publications Office of the European Union.

Holland, P. (2016). Why is Argentina suffering from StagLearning? The World Bank Group. Retrieved from <http://blogs.worldbank.org/education/why-argentina-suffering-staglearning>

Kottasova, I. (2016). Saudi Arabia cuts funding for students abroad. CNN Money. Retrieved from <http://money.cnn.com/2016/02/09/news/saudi-arabia-students-overseas/index.html>

Majgaard, K. and Mingat, (2012). Education in Sub-Saharan Africa: a comparative analysis. The World Bank Group. Retrieved from <https://openknowledge.worldbank.org/bitstream/handle/10986/13143/9780821388891.pdf;sequence=1>

Organization for Economic Cooperation and Development. (2016). Low-Performing Students: Why They Fall Behind and How To Help Them Succeed. Paris: OECD Publishing.

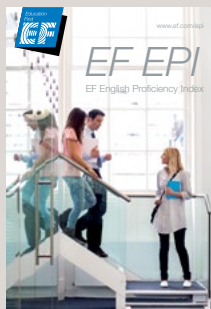
Organization for Economic Cooperation and Development. (2015). Programme for International Student Assessment. Retrieved from <http://www.oecd.org/pisa/>

United Nations Development Programme. (2016). Human Development Report 2016: Human Development for Everyone. Retrieved from <http://report.hdr.undp.org/>

United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization. (2014). Education Systems in ASEAN+6 Countries: A Comparative Analysis of Selected Educational Issues. Retrieved from <http://unesdoc.unesco.org/images/0022/002267/226757E.pdf>

United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization. (2014). Regional Report about Education for All in Latin America and the Caribbean. Retrieved from [http://www.unesco.org/fileadmin/MULTIMEDIA/HQ/ED/ED\\_new/pdf/LAC-GEM-2014-ENG.pdf](http://www.unesco.org/fileadmin/MULTIMEDIA/HQ/ED/ED_new/pdf/LAC-GEM-2014-ENG.pdf)

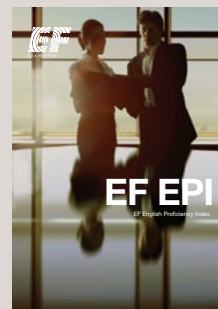
EF EPI のバックナンバーは [WWW.EF.COM/EPI](http://WWW.EF.COM/EPI) からダウンロードできます。



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
第 1 版 (2011)



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
第 2 版 (2012)



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
第 3 版 (2013)



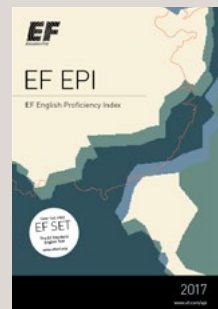
EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
第 4 版 (2014)



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
第 5 版 (2015)



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
第 6 版 (2016)



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
第 7 版 (2017)





# EF EPI

---

EF 英語能力指数

お問い合わせ  
[www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi)